令和７年度

教　育　計　画　書

青森県営農大学校

目　　次

Ⅰ　教育の目標 ----------1

Ⅱ　教育の方針 ----------1

Ⅲ　教育の方法 ----------1

Ⅳ　各課程の教育方針と重点指導項目 ----------4

Ⅴ　授業科目・単位数・授業時間数 ----------6

Ⅵ　教科別授業時間計画表 ----------9

Ⅶ　講師一覧 ----------１２

Ⅷ　講義内容

１　教養科目

（１）必修科目

生　　物 ----------１６
英 会 話 ----------１７
体　　育 ----------１８
気象概論 ----------１９
社 会 学 ----------２０
法　　学 ----------２０

（２）選択科目

化　　学 ----------２１
英 語 Ａ ----------２２
英 語 Ｂ ----------２２

２　専門共通科目

（１）必修科目

農業経営 ----------２３
農業経営設計 ----------２３
農政時事 ----------２４
マーケティング論 --------２５
海外農業と食料 ----------２６
ＧＡＰ活用論 ----------２６
農畜産物流通論 ----------２７
農業簿記Ⅰ ----------２８
農業簿記Ⅱ ----------２９
農業金融・農協概論 ------２９
農業概論 ----------３０
畜産概論 ----------３１
商品開発概論 ----------３１
環境保全農業概論 ----------３２
土壌肥料 ----------３３
ＩＣＴ・先端技術活用論 ------３４
農業機械操作Ⅰ（大特） -------３４
農業機械整備 ----------３５
情報処理Ⅰ ----------３６
情報処理Ⅱ ----------３６
食品加工基礎 ----------３７
地域食材論 ----------３７
食品加工演習 ----------３８
６次産業化基礎 ----------３８

（２）選択科目

毒物・劇物 ----------３９
危　険　物 ----------３９
基礎ゼミナール ----------４０
農業機械操作Ⅱ（けん引） -----４０

３　専攻科目
（１）畑作園芸課程
植物病理 ----------４１
作物昆虫 ----------４１
野菜園芸学 ----------４２
野菜園芸各論 ----------４２
花き園芸学 ----------４３
花き園芸各論 ----------４３
稲作各論 ----------４４
野菜・花き園芸ゼミナール ----４５
作物育種 ----------４７
農家実習 ----------４８
卒業論文 ----------４８
野菜園芸栽培【専攻実習】 ----４９
花き園芸栽培【専攻実習】 ----５１
野菜・花き園芸栽培【専攻実習】 ---５３
（２）果樹課程
植物病理 ----------５４
作物昆虫 ----------５４
果樹園芸学 ----------５５
果樹園芸各論 ----------５５
りんご・一般果樹ゼミナール --５６
果樹育種 ----------５８
農家実習 ----------５９
卒業論文 ----------５９
りんご栽培【専攻実習】 ------６０
一般果樹栽培【専攻実習】 ----６２
りんご・一般果樹栽培【専攻実習】 ----６４
（３）畜産課程
家畜繁殖 ----------６６
飼料作物 ----------６７
家畜衛生 ----------６７
家畜生理 ----------６８
家畜栄養 ----------６８
家畜解剖 ----------６９
家畜飼養管理 ----------７０
畜産ゼミナール ----------７１
畜産環境保全 ----------７２
家畜育種 ----------７２
農家実習 ----------７３
卒業論文 ----------７３
肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】 ----７４
（４）６次産業化コース
マーケティング論（応用） ---７７
フードシステムと食品流通 ---７８
経営管理基礎 ----------７８
食品加工・貯蔵学 -------- ７９
食品衛生学 ----------７９
６次産業化ゼミナール --------８０
６次産業化実践【専攻実習】 -----８１
卒業論文 ----------８１
４　自由選択科目
農業機械操作Ⅲ（無人ﾍﾘ） ---８２
茶　　道 ----------８２
華　　道 ----------８３
５　特別活動 ----------８３
６　専攻実習計画表 ----------８５
Ⅸ　農家実習 ----------９３
Ⅹ　年間行事計画 ----------９５

Ⅰ　教育の目標

農業を志す青年に対して、農業に関する知識や技術、経営管理能力を修得させるとともに、社会経済情勢に対応し得る応用力とたくましい実践能力を養い、地域農業の中核的担い手となり得る農業経営者及び農業を支える多様な人財を養成する。

Ⅱ　教育の方針

○　農業に関する高度な専門技術を修得させ、経営能力を養うため、実践学習と基礎理論との調和のとれた教育を行う。

○　社会人としての素養と教養、農業者としての資質を高めるため、情勢の変化に対応した体系的なカリキュラムを編成し、それに基づいた教育を行う。

○　地域社会で活躍できる人財を育成するため、自主活動等を通して豊かな人間性を養う。

Ⅲ　教育の方法

１　設置課程と専攻コース

<table>
<tr><th>課　程</th><th colspan="2">専攻コース</th></tr>
<tr><td>畑作園芸</td><td>○野　菜（水稲を含む）
○花　き</td><td rowspan="3">○６次産業化
（どの課程からも専攻可能）
※人数制限を行う場合がある</td></tr>
<tr><td>果　　樹</td><td>○りんご
○一般果樹</td></tr>
<tr><td>畜　　産</td><td>○畜　産</td></tr>
</table>

２　教育の展開と実施計画

（１）学年別学習の展開

ア　１学年は、教養科目及び専門共通科目を主とし、実習は課程ごとに行う。

イ　２学年は専攻科目を主とし、専門共通科目を含めた応用学習とする。

実習は経営実践学習とし、プロジェクト方式により進め、その学習成果を取りまとめ、その結果を踏まえて卒業論文としてまとめる。

ウ　２学年の経営実践学習を効率的かつ円滑に進めるため、１学年の後半から導入過程としてプロジェクト学習を行う。

（２）実施計画

教育は、年間計画、月間計画を作成して実施する。月間計画は年間計画を基準として作成する。

３　教育の手段

（１）講　義

ア　一般教養及び高度な専門技術並びに経営の基礎となる理論を学び、これを応用する能力を養う。

イ　実証的なデータを活用し、絶えず問題提起を行い、単なる理論学習に終わることなくアクティブラーニングにより学習意欲を喚起する。

ウ　教育の効果を高めるため、実物・実物標本・視聴覚教材・その他の教材を効率的に利用する。

（2）実　験

ア　体系化された現行技術は、長年の経験と試行や科学的論証に基づき実用化されていることから、理論と現象との因果関係の理解を深めるため、実験学習を計画的に行う。

イ　実験は経営者として必要な事項について行い、その内容は土壌分析等の化学実験、作物及び家畜の生理実験、解剖による診断等である。

（3）演　習

ア　実習前後の現場学習・研究討議・実習打合せ、経営設計、簿記演習、情報処理、卒業論文取りまとめ等の総称である。そのため、理論学習と実践学習との接点学習として、演習を計画的に行う。

イ　実習前の演習は実習内容に対する予備知識と取組方法を教え、実習後の演習は研究討議により次へのステップアップに結び付ける。

（4）実　習

ア　実習に対する基本的な考え方

実習により技術の習熟を図るとともに、潜在能力を啓発し、意欲を増進して経営能力を養うことにある。更に集団で行う実習活動を通して組織としての活動の在り方を学ぶ。

イ　実習の類別

（ア）専攻実習

１学年においては基本技術を学び、２学年においては高度な専門技術を学ぶとともに、経営実践学習を通して経営管理能力を養う。

また、専攻実習は、専門技術及び経営能力を養い、応用・創造及び課題解決の能力を培う重要な教育手段であるので、講義や実習・実験と関連付けて効果的に行われるよう進める。

ａ　１学年における専攻実習（生産技術学習）

（ａ）実習班は課程ごとに編成する。

（ｂ）課程の作目全般について栽培・飼育を１サイクル経験し、基本的な技術を学ぶ。

（ｃ）研究課題を設定して取り組み、自主学習･記録･調査･観察･考察する習慣を養う。（生産プロジェクト方式）

（ｄ）実習の中で２学年に行う経営実践学習を踏まえ、後半においてはプロジェクト学習を行い、２学年への移行を円滑にする。

ｂ　２学年における専攻実習（経営実践学習）

（ａ）実習班は専攻コースごとに編成する。

（ｂ）自主的な実践活動を通して、高度な専門技術の習得及び効率的な労働・作業技術の習得並びに経営能力を養う。

（ｃ）チームとしての取組を通して、組織活動能力を養う。

（イ）共通実習

専攻するコース以外の実習で、作目間の相互関連性と技術の総合性について、活動を通して理解を深める。

（ウ）農家実習

一定期間、県内の先進的農業者等に派遣し、先進的農業者等の技術・経営・生活を体験させ、農業に関する知識や技術を深めるとともに、将来の農業経営に役立てる。

（５）卒業論文

２年間のプロジェクト学習の成果を集約するもので、農業経営や生産技術、地域農業の概要等に関するテーマで設計し、取りまとめる。

（６）特別活動

入校式や卒業式などの学校行事のほか、各種自治会活動、就農又はビジネス講座などを実施する。また、自主的な活動を助長するため、自治会活動やクラブ活動を実施する。

（７）各種免許・資格の取得

農業者として必要な免許・資格の取得を目指し、そのために必要な知識・技術について、学習を実施する。

種　　類	対応科目	１学年	２学年
大型特殊自動車運転免許（農耕用）	農業機械操作Ⅰ	○	
けん引免許（農耕用）	〃　Ⅱ		○
産業用無人ヘリコプターオペレーター技能認定	〃　Ⅲ		○
毒物劇物取扱者（一般）	毒物・劇物	○	
危険物取扱者（乙種第４類）	危険物	○	
家畜人工授精師（畜産課程対象）	畜産概論		○
	家畜繁殖		
	家畜解剖		
	家畜栄養		
	家畜飼養管理		
	家畜育種		
日商簿記検定（３級）	農業簿記Ⅰ	○	
農業技術検定（２、３級）	基礎ゼミナール	○	
食品衛生責任者（６次産業化コース対象）	食品衛生学		○
茶道裏千家淡交会（初級）	茶道		○
華道池坊（初伝）	華道		○
刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育	な　し	○	
チェーンソー作業特別教育	〃	○	
アーク溶接特別教育講習	〃	○	
ガス溶接技能講習	〃	○	
家畜商免許（畜産課程対象）	〃	○	○
２級認定牛削蹄師（畜産課程対象）	〃	○	○
車両系建設機械(整地･運搬･積込み用及び掘削用)運転技能講習	〃	○	
フォークリフト運転技能講習	〃	○	
産業用マルチローターオペレーター技能認定	〃	○	

（８）生活教育

学生の自主的集団活動の体験を通して、自主・自立の生活態度を養い、個性を伸ばし情操を豊かにして、社会人としての資質を高めるための指導を行う。

Ⅳ　各課程の教育方針と重点指導項目

１　畑作園芸課程

野菜・花き部門における優れた担い手を育成するため、野菜及び花きコースを設け「ながいも」「にんにく」「ごぼう」「だいこん」等の露地野菜、「トマト」「きゅうり」等の施設野菜及び「きく」「トルコギキョウ」等の花き並びに水稲に関する生理生態や栽培の基本技術、経営的手法を次の事項により、実践的に習得させる。

（１）共通

ア　連作障害回避のため、野菜及び緑肥を組み合わせた輪作体系の習得
イ　土壌診断に基づく堆肥・土壌改良資材の投入等土壌管理技術の習得
ウ　減化学肥料・減農薬等環境負荷の少ない栽培技術の習得
エ　新作物・養液栽培等先端技術の習得

（２）野菜コース（水稲含む）

ア　水稲及び露地野菜のスマート農業などの省力化技術、高品質・多収技術の習得
イ　新技術や新しい品種・作型の栽培技術の習得
ウ　環境にやさしく低コストでできる養液栽培技術の習得
エ　水稲・野菜・花きの組合せ及び施設の通年利用等による効率的経営技術の習得
オ　微生物資材、生物農薬等を使用した環境にやさしい農業の推進
カ　トレーサビリティーの実施による野菜栽培情報の開示

（３）花きコース

ア　一・二年草（トルコギキョウ等）の栽培技術の習得
イ　宿根草（きく等）の栽培技術の習得
ウ　球根類（アルストロメリア等）の栽培技術の習得
エ　鉢花類（プリムラ等）の栽培技術の習得
オ　切り花類及び鉢花における開花調節技術の習得

２　果樹課程

果樹部門における優れた担い手を育成するため、りんご及び一般果樹コースを設け、全国一の生産量を誇るりんごを中心に、県内で産地化が進んでいる他の一般果樹（ぶどう、日本・西洋なし、おうとう、ブルーベリー、もも）も含めた果樹全般の基本技術、経営的手法を次の事項により実践的に習得させる。

（１）共通

ア　果樹の生態観察に基づく作業適期判断方法の習得
イ　病害虫発生状況観察に基づく農薬散布時期判定方法の習得
ウ　果実の食味等熟度判定に基づく収穫時期判断方法の習得
エ　整枝剪定理論及び技術の習得

（２）りんごコース

ア　台木及び栽植様式に由来する栽培管理方法の習得

イ　高品質果実生産を目的とした栽培管理方法の習得

ウ　主要品種及び有望品種の栽培特性の理解

エ　施肥、剪定等樹勢管理技術の習得

（３）一般果樹コース

ア　雨よけ等施設栽培方法の習得

イ　地力や気象条件に適合した作目及び品種選択方法の習得

ウ　販売を意識した収穫果品質管理方法の習得

エ　果樹複合経営に向けた作業管理方法の習得

３　畜産課程

畜産部門における優れた担い手を育成するため、畜産コースを設け、乳用牛及び肉用牛を中心に、家畜の飼養管理技術、飼料作物の栽培・収穫・調製技術、経営技術についての専門知識を次の事項により実践的に習得させる。

（１）共通

ア　家畜の繁殖生理、栄養生理、衛生、育種の基礎的知識の習得

イ　家畜の体構造と各器官の機能の基礎知識の習得

ウ　家畜飼養管理の基礎的知識と基本的飼養管理技術の習得

エ　草量の確保のための、草地の肥培管理技術の習得

オ　環境保全型畜産経営の習得

（２）酪農

ア　繋ぎ飼い牛舎とパイプライン方式の搾乳による酪農経営技術の習得

イ　高泌乳牛に対応した飼養管理技術の習得

ウ　牛群検定事業を活用した経営管理技術の習得

（３）肉用牛

ア　電気牧柵利用による放牧草地の有効利用と放牧管理技術の習得

イ　肉牛改良と肉牛経営技術の習得

ウ　高品質牛肉生産のための飼養管理技術の習得

４　６次産業化コース

地域の６次産業化を担う優れた人財を育成するため、農畜産物の加工技術や商品設計、マーケティングに基づく販売、経営管理等の専門知識を次の事項により実践的に習得させる。

ア　農畜産物の特性等を生かした付加価値の高い加工品生産に必要な加工・貯蔵技術の習得

イ　食品衛生やＨＡＣＣＰに関する知識の習得

ウ　商品価値の高い売れる加工品づくりに必要なマーケティングの考え方や具体的手法の習得

エ　作った商品を消費者に届ける仕組みに関する知識の習得

オ　労務管理や原価計算など、経営管理に必要となる基礎知識の習得

Ⅴ　授業科目・単位数・授業時間数

区分		科目	1年					2年					合計	
			単位	講義	実験演習	実習	計	単位	講義	実験演習	実習	計	単位	
教養科目	必修科目	生物	1	15			15						1	15
		英会話	2	30			30						2	30
		体育	1		30		30	1		30		30	2	60
		気象概論	1	15			15						1	15
		社会学	1	15			15						1	15
		法学	1	15			15						1	15
		小計	7	90	30		120	1		30		30	8	150
	選択科目	化学	1	15			15						1	15
		英語A	1	15			15						1	15
		英語B						1	15			15	1	15
専門共通科目	必修科目	農業経営	2	30			30						2	30
		農業経営設計						1		30		30	1	30
		農政時事						2	30			30	2	30
		マーケティング論	2	30			30						2	30
		海外農業と食料	1	15			15						1	15
		GAP活用論	1	15			15						1	15
		農畜産物流通論	1	15			15						1	15
		農業簿記Ⅰ	1		30		30						1	30
		農業簿記Ⅱ						1		30		30	1	30
		農業金融・農協概論						1	15			15	1	15
		農業概論	2	30			30						2	30
		畜産概論	1	15			15						1	15
		商品開発概論	1	15			15						1	15
		環境保全農業概論	1	15			15						1	15
		土壌肥料	2	30			30						2	30
		ICT・先端技術活用論	2	30			30						2	30
		農業機械操作Ⅰ(大特)	1			45	45						1	45
		農業機械整備	2	15	30		45						2	45
		情報処理Ⅰ	2	15	30		45						2	45
		情報処理Ⅱ						2	15	30		45	2	45
		食品加工基礎	1	15			15						1	15
		地域食材論						1	15			15	1	15
		食品加工演習						1		30		30	1	30
		6次産業化基礎	1	15			15						1	15
		小計	24	300	90	45	435	9	75	120		195	33	630
	選択科目	毒物・劇物	2	30			30						2	30
		危険物	2	30			30						2	30
		基礎ゼミナール	1		30		30						1	30
		農業機械操作Ⅱ(けん引)						1			45	45	1	45

区分		科目			1年					2年					合計	
					単位	講義	実験演習	実習	計	単位	講義	実験演習	実習	計	単位	
専攻科目	畑作園芸課程科目	共通科目		植物病理※						2	15	30		45	2	45
				作物昆虫※						2	15	30		45	2	45
				野菜園芸学	1	15			15						1	15
				野菜園芸各論	3	45			45						3	45
				花き園芸学	1	15			15						1	15
				花き園芸各論	1	15			15						1	15
				稲作各論	1	15			15						1	15
				野菜・花き園芸ｾﾞﾐﾅｰﾙ※	3	45			45	2	15	30		45	5	90
				作物育種※						1	15			15	1	15
				農家実習						3	15		90	105	3	105
				野菜・花き園芸栽培【専攻実習】	13			585	585						13	585
		コース科目	野菜	野菜園芸栽培【専攻実習】						14	45		495	540	14	540
				卒業論文						3		90		90	3	90
			花き	花き園芸栽培【専攻実習】						14	45		495	540	14	540
				卒業論文						3		90		90	3	90
		小計			23	150		585	735	27	120	180	585	885	50	1,620
	果樹課程科目	共通科目		植物病理※						2	15	30		45	2	45
				作物昆虫※						2	15	30		45	2	45
				果樹園芸学	2	30			30						2	30
				果樹園芸各論	5	75			75						5	75
				りんご・一般果樹ｾﾞﾐﾅｰﾙ※	3	45			45	2	15	30		45	5	90
				果樹育種※						1	15			15	1	15
				農家実習						3	15		90	105	3	105
				りんご・一般果樹栽培【専攻実習】	13			585	585						13	585
		コース科目	りんご	りんご栽培【専攻実習】						14	45		495	540	14	540
				卒業論文						3		90		90	3	90
			一般	果樹栽培【専攻実習】						14	45		495	540	14	540
				卒業論文						3		90		90	3	90
		小計			23	150		585	735	27	120	180	585	885	50	1,620
	畜産課程科目	共通科目		家畜繁殖	2	30			30						2	30
				飼料作物※						1	15			15	1	15
				家畜衛生※						2	30			30	2	30
				家畜生理	1	15			15						1	15
				家畜栄養	1	15			15						1	15
				家畜解剖	2	30			30	1		30		30	3	60
				家畜飼養管理	3	30		45	75						3	75
				畜産ゼミナール※	1	15			15	2		60		60	3	75
				畜産環境保全※						1	15			15	1	15
				家畜育種	1	15			15						1	15
				農家実習						3	15		90	105	3	105
				肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】	12			540	540						12	540
		コース科目	畜産	肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】						14	45		495	540	14	540
				卒業論文						3		90		90	3	90
		小計			23	150		585	735	27	120	180	585	885	50	1,620
	コース科目（6次産業化）	マーケティング論(応用)								2	30			30	2	30
		フードシステムと食品流通								1	15			15	1	15
		経営管理基礎								1	15			15	1	15
		食品加工・貯蔵学								2	15	30		45	2	45
		食品衛生学								1	15			15	1	15
		6次産業化ゼミナール								2	15	30		45	2	45
		6次産業化実践【専攻実習】								7		30	270	300	7	300
		専攻実習	所属課程	畑作	野菜・花き園芸栽培					5			225	225	5	225
				果樹	りんご・一般果樹栽培					5			225	225	5	225
				畜産	肉用牛・乳用牛飼養					5			225	225	5	225
		卒業論文								3		90		90	3	90
		(所属課程農家実習)								(3)	(15)		(90)	(105)	(3)	(105)
		小計(農家実習含む)								27	120	180	585	885	27	885
合　計					54	540	120	630	1,290	37	195	330	585	1,110	91	2,400

区分	科目	1年					2年					合計	
		単位	講義	実験演習	実習	計	単位	講義	実験演習	実習	計	単位	
自由選択科目	農業機械操作Ⅲ(無人ヘリ)						4	30		90	120	4	120
	茶道	1		30		30	1		30		30	2	60
	華道	1		30		30	1		30		30	2	60
特別活動	学校行事	―		90		90	―		95		95	―	185
	自治会活動	―		15		15	―		15		15	―	30
	就農・ビジネス講座	―		15		15	―		5		5	―	20

(注1)教養科目のうち、必修科目はすべてを履修(授業を受けること)し、選択科目を含め9単位以上修得すること。

(注2)専門共通科目のうち、必修科目はすべてを履修し、選択科目を含め所定の単位を修得すること。

(注3)専攻科目の各課程共通科目は、そのすべてを履修し、修得すること。

ただし、6次産業化コースを選択した者は、2学年に※印の科目の履修・修得を要しない。

(注4)専攻科目のコース科目(6次産業化含む)は、その一つを選択し、そのすべてを履修し、修得すること。

Ⅵ　教科別授業時間計画表

区分		科　目	学年	内容	単位	校時数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教養科目	必修科目	生物	1	講義	1	8	3	4	1									
		英会話	1	講義	2	15	8	7										
		体育	1	実技	1	15			1	1	1	2	3		1	2	4	
		体育	2	実技	1	15		2	1	1	1	2	2			2	4	
		気象概論	1	講義	1	8	2	3	2	1								
		社会学	1	講義	1	8						4	1	1	1	1		
		法学	1	講義	1	8											4	4
	選択科目	化学	1	講義	1	8		2	6									
		英語A	1	講義	1	8								4	4			
		英語B	2	講義	1	8								4	4			
専門共通科目	必修科目	農業経営	1	講義	2	15				3		2	2	3	3	2		
		農業経営設計	2	演習	1	15	2	4	3	2	4							
		農政時事	2	講義	2	15	2	2	2	2	2	2		2	1			
		マーケティング論	1	講義	2	15		1	1	1	1	3	2	1		3		2
		海外農業と食料	1	講義	1	8				1	1	2	2			1	1	
		GAP活用論	1	講義	1	8		1		1			2	4				
		農畜産物流通論	1	講義	1	8											4	4
		農業簿記Ⅰ	1	演習	1	15									5	8	2	
		農業簿記Ⅱ	2	演習	1	15		6	6	3								
								(6)	(6)	(3)								
		農業金融・農協概論	2	講義	1	8		2	2						2	1	1	
		農業概論	1	講義	2	15	6	3	3	3								
		畜産概論	1	講義	1	8	3	4	1									
		商品開発概論	1	講義	1	8							2	2	2	2		
		環境保全農業概論	1	講義	1	8							4	4				
		土壌肥料	1	講義	2	15					1	4	4	6				
		ICT・先端技術活用論	1	講義	2	15			2	4		2	2	2	3			
		農業機械操作Ⅰ(大特)	1	実習	1	23		23	(23)	(23)								
		農業機械整備	1	講義	1	8				8	(8)							
				演習	1	15				15	(15)							
		情報処理Ⅰ	1	講義	1	8			2	2						2	2	
									(2)	(2)						(2)	(2)	
				演習	1	15			2	2	2					5	4	
									(2)	(2)	(2)					(5)	(4)	
		情報処理Ⅱ	2	講義	1	8						3	2	3				
												(3)	(2)	(3)				
				演習	1	15						5	5	5				
												(5)	(5)	(5)				
		食品加工基礎	1	講義	1	8	1	1	1	1		1	1	1	1			
		地域食材論	2	講義	1	8	1	1	1	1		1	1	1	1			
		食品加工演習	2	演習	1	15							6	3		6		
		6次産業化基礎	1	講義	1	8			1	1	1	2	1			2		
	選択科目	毒物・劇物	1	講義	2	15				10	5							
		危険物	1	講義	2	15										2	6	7
		基礎ゼミナール	1	演習	1	15										2	6	7
		農業機械操作Ⅱ(けん引)	2	実習	1	23	23	(23)										

区分				科目	学年	内容	単位	校時数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻科目	畑作園芸課程科目	共通科目		植物病理	2	講義	1	8				6				2				
					2	演習	1	15		1	1	2	2	3	2	2	2			
				作物昆虫	2	講義	1	8								8				
					2	演習	1	15			2	2	2	3	2	2	2			
				野菜園芸学	1	講義	1	8	1	1	2	2	2							
				野菜園芸各論	1	講義	3	23						2	1	2	2	3	3	2
				花き園芸学	1	講義	1	8	1	1	1	2	1	2						
				花き園芸各論	1	講義	1	8							1	1	2	2	2	
				稲作各論	1	講義	1	8	1	1	2	2	2							
				野菜・花き園芸ゼミナール	1	講義	3	23	2						2		13		2	4
					2	講義	1	8	2								6			
					2	演習	1	15	2	1	1	1		1	1	2	2	4		
				作物育種	2	講義	1	8	2	2	1	2	1							
				農家実習	2	実習	2	45			45			(45)						
						講義	1	8			8			(8)						
				野菜・花き園芸栽培【専攻実習】	1	実習	13	293	30	30	30	25	15	30	30	30	30	15	15	13
		コース科目	野菜	野菜園芸栽培【専攻実習】	2	講義	3	23	3	3	3	3		3	3	3	2			
					2	実習	11	248	35	30	30	20	15	30	45	30	13			
				卒業論文	2	演習	3	45									10	25	10	
			花き	花き園芸栽培【専攻実習】	2	講義	3	23	3	3	3	3		3	3	3	2			
					2	実習	11	248	35	30	30	20	15	30	45	30	13			
				卒業論文	2	演習	3	45									10	25	10	
	果樹課程科目	共通科目		植物病理	2	講義	1	8				6	2							
					2	演習	1	15		1	1	2	2	3	2	2	2			
				作物昆虫	2	講義	1	8					2			6				
					2	演習	1	15			2	2	2	3	2	2	2			
				果樹園芸学	1	講義	2	15	3	4	4	4								
				果樹園芸各論	1	講義	5	38					3	6	6	5	5	5	5	3
				りんご・一般果樹ゼミナール	1	講義	3	23	2						2		12		3	4
					2	講義	1	8	2								6			
					2	演習	1	15	2	1	1	1		1	1	2	2	4		
				果樹育種	2	講義	1	8	3	5										
				農家実習	2	実習	2	45			45			(45)						
						講義	1	8			8			(8)						
				りんご・一般果樹栽培【専攻実習】	1	実習	13	293	30	30	30	25	15	30	30	30	30	15	15	13
		コース科目	りんご	りんご栽培【専攻実習】	2	講義	3	23	3	3	3	3		3	3	3	2			
					2	実習	11	248	35	30	30	20	15	30	45	30	13			
				卒業論文	2	演習	3	45									10	25	10	
			一般	果樹栽培【専攻実習】	2	講義	3	23	3	3	3	3		3	3	3	2			
					2	実習	11	248	35	30	30	20	15	30	45	30	13			
				卒業論文	2	演習	3	45									10	25	10	
	畜産課程科目	共通科目		家畜繁殖	1	講義	2	15		6					5		2	2		
				飼料作物	2	講義	1	8		4	2	1	1							
				家畜衛生	2	講義	2	15		3	2	2	3	3	2					
				家畜生理	1	講義	1	8							1	1	2	4		
				家畜栄養	1	講義	1	8		1	1			2	1	1	1	1		
				家畜解剖	1	講義	2	15	2	2	2	2	2	2	3					
					2	演習	1	15	2	4	4		5							
				家畜飼養管理	1	講義	2	15	2	4				3	4	1	1			
					1	実習	1	23									8	8	7	
				畜産ゼミナール	1	講義	1	8	2						2		4			
					2	演習	2	30	4	1	1	1		2	2	3	10	6		
				畜産環境保全	2	講義	1	8							4	4				
				家畜育種	1	講義	1	8						1	1	3	3			
				農家実習	2	実習	2	45			45			(45)						
						講義	1	8			8			(8)						
				肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】	1	実習	12	270	20	30	30	20	20	20	30	20	20	20	20	20
		コース科目	畜産	肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】	2	講義	3	23	2	2	2	3	2	2	3	3	2	2		
					2	実習	11	248	30	30	30	30	20	20	30	25	25	8		
				卒業論文	2	演習	3	45									10	25	10	

区分	科目			学年	内容	単位	校時数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻科目	コース科目（6次産業化）	マーケティング論(応用)		2	講義	2	15		1	1	4	2	4	2	1				
		フードシステムと食品流通		2	講義	1	8		1	2	1		2	1	1				
		経営管理基礎		2	講義	1	8			1	2		4			1			
		食品加工・貯蔵学		2	講義	1	8		3	2			2		1				
				2	演習	1	15				4		4	4	3				
		食品衛生学		2	講義	1	8		4	2				1	1				
		6次産業化ゼミナール		2	講義	1	8	4	1		1			1		1			
				2	演習	1	15	4	2	2			1	3	1	1	1		
		6次産業化実践【専攻実習】		2	演習	1	15												
				2	実習	6	135	5	5	20	15	10	20	20	20	20			
		専攻実習	所属課程 畑作	2	実習	5	113	30	25	15	8	5	5	10	10	3	2		
			果樹	2	実習	5	113	30	25	15	8	5	5	10	10	3	2		
			畜産	2	実習	5	113	30	25	15	8	5	5	10	10	3	2		
		卒業論文		2	演習	3	45									10	25	10	
自由選択科目	農業機械操作Ⅲ(無人ヘリ)			2	講義	2	15							8	7				
				2	演習	2	45							30	15				
	茶道			1	演習	1	15		2	2	2	2	2	2		1	1	1	
				2	演習	1	15		2	2	2	2	2	2		1	1	1	
	華道			1	演習	1	15		2	2	2	2	2	2		1	1	1	
				2	演習	1	15		2	2	2	2	2	2		1	1	1	
特別活動	学校行事			1			45	14	2	3		5	1	9	1	2			8
				2			48	16	3	3		5	1	9	1	2			8
	自治会活動			1			8		1	1	1		1	1	1		1	1	
				2			8		1	1	1		1	1	1		1	1	
	就農・ビジネス講座			1			8	1		1						1	1	2	2
				2			3	1	1								1		

※( )は班を複数に分けて行う授業

Ⅶ　講師一覧

区分		科目	時間数 1年	時間数 2年	講師 担当者名	講師 所属等
教養科目	必修科目	生物	15		福士広司	元高等学校長
		英会話	30		リッチ ジョセフ ウェイド	英会話教室
		体育	30	30	萠出昌彦、担当職員	元中学校長、営農大学校
		気象概論	15		藤田淳	青森県気象予報士会
		社会学	15		営大職員	営農大学校
		法学	15		廣瀬孝壽	青森中央学院大学
	選択科目	化学	15		松野洋祐	元高等学校長
		英語A	15		リッチ ジョセフ ウェイド	英会話教室
		英語B		15	リッチ ジョセフ ウェイド	英会話教室
専門共通科目	必修科目	農業経営	30		加来聡伸、佐々木孝子	八戸学院大学、営農大学校
		農業経営設計		30	担当職員、佐々木孝子	上北農林水産事務所、営農大学校
		農政時事		30	豊川良昭、山崎道晴ほか	営農大学校、(公社)緑の安全推進協会ほか
		マーケティング論	30		星野康人、有識者、弁理士、担当職員	マーケティングコンサルタント、八戸学院大学、知財センター、食ブランド・流通推進課ほか
		海外農業と食料	15		石塚哉史、担当職員	弘前大学、東北農政局青森県拠点ほか
		GAP活用論	15		有識者、担当職員	GAP関係会社、農産園芸課
		農畜産物流通論	15		石塚哉史	弘前大学
		農業簿記Ⅰ	30		佐藤武	営農大学校
		農業簿記Ⅱ		30	和島市郎	税理士事務所
		農業金融･農協概論		15	担当職員	団体経営改善課、農協中央会
		農業概論	30		中村豊、担当職員ほか	元高等学校長、営農大学校ほか
		畜産概論	15		担当職員	営農大学校
		商品開発概論	15		担当職員ほか	弘前工業研究所
		環境保全農業概論	15		担当職員ほか	東北農政局青森県拠点ほか
		土壌肥料	30		下山邦博	元県職員
		ICT・先端技術活用論	30		林和信、林久喜、村本卓、堀明人、担当職員ほか	農研機構、筑波大学、八戸学院大学、ITｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、農業機械ﾒｰｶｰほか
		農業機械操作Ⅰ（大特）	45		佐藤武、中島優太	営農大学校
		農業機械整備	45		佐藤武、中島優太	営農大学校
		情報処理Ⅰ	45		中野渡美香	パソコン教室
		情報処理Ⅱ		45	中野渡美香	パソコン教室
		食品加工基礎	15		担当職員	営農大学校
		地域食材論		15	担当職員	営農大学校
		食品加工演習		30	担当職員、新堀徹子	農産物加工研究所、そば店経営者ほか
		６次産業化基礎	15		担当職員ほか	農産物加工研究所、食ブランド・流通推進課ほか
	選択科目	毒物・劇物	30		有識者、担当職員	電力関係会社、営農大学校
		危険物	30		有識者、担当職員	電力関係会社ほか
		基礎ゼミナール	30		担当職員	営農大学校
		農業機械操作Ⅱ（けん引）		45	佐藤武、中島優太	営農大学校

区分		科目		時間数		講師	
				1年	2年	担当者名	所属
専攻科目	畑作園芸課程科目	共通	植物病理		45	荒井茂充、担当職員	元県産業技術センター、県産業技術センター、営農大学校
			作物昆虫		45	担当職員	県産業技術センター、営農大学校
			野菜園芸学	15		松浦孝幸	営農大学校
			野菜園芸各論	15		成田、伊藤、松浦、對馬	営農大学校
			花き園芸学	45		對馬慶、成田治	営農大学校
			花き園芸各論	15		對馬慶、成田治	営農大学校
			稲作各論	15		松浦孝幸	営農大学校
			野菜・花き園芸ゼミナール	45	45	成田、伊藤、松浦、對馬	営農大学校
			作物育種		15	伊藤和彦	営農大学校
			農家実習		105	受入農家ほか	
			野菜・花き園芸栽培【専攻実習】	585		成田、伊藤、松浦、對馬	営農大学校
		野菜	野菜園芸栽培【専攻実習】		540	成田、伊藤、松浦、對馬	営農大学校
			卒業論文		90	成田、伊藤、松浦、對馬	営農大学校
		花き	花き園芸栽培【専攻実習】		540	對馬慶、成田治	営農大学校
			卒業論文		90	對馬慶、成田治	営農大学校
	果樹課程科目	共通	植物病理		45	荒井茂充、担当職員	元県産業技術センター、県産業技術センター、営農大学校
			作物昆虫		45	担当職員	県産業技術センター、営農大学校
			果樹園芸学	30		土嶺、上原子、乙部	営農大学校
			果樹園芸各論	75		土嶺、上原子、乙部	営農大学校
			りんご・一般果樹ゼミナール	45	45	土嶺、上原子、乙部	営農大学校
			果樹育種		15	今智之、土嶺康憲	元県職員、営農大学校
			農家実習		105	受入農家ほか	
			りんご・一般果樹栽培【専攻実習】	585		土嶺、上原子、乙部	営農大学校
		りんご	りんご栽培【専攻実習】		540	土嶺、上原子、乙部	営農大学校
			卒業論文		90	土嶺、上原子、乙部	営農大学校
		一般果樹	果樹栽培【専攻実習】		540	土嶺、上原子、乙部	営農大学校
			卒業論文		90	土嶺、上原子、乙部	営農大学校
	畜産課程科目	共通	家畜繁殖	30		三浦弘、種市弥枝	北里大学、営農大学校
			飼料作物		15	担当職員	営農大学校
			家畜衛生		30	担当職員	各家畜保健衛生所、営農大学校
			家畜生理	15		担当職員	県産業技術センター、営農大学校
			家畜栄養	15		担当職員、種市弥枝	畜産協会、営農大学校
			家畜解剖	30	30	種市弥枝、中村夏奈	営農大学校
			家畜飼養管理	75		担当職員、種市、中村	県産業技術センター、営農大学校
			畜産ゼミナール	15	60	種市弥枝、中村夏奈	営農大学校
			畜産環境保全		15	種市弥枝	営農大学校
			家畜育種	15		担当職員、種市弥枝	畜産協会、営農大学校
			農家実習		105	受入農家ほか	
			肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】	540		種市弥枝、中村夏奈	営農大学校
		畜産	肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】		540	種市弥枝、中村夏奈	営農大学校
			卒業論文		90	種市弥枝、中村夏奈	営農大学校

区分		科目		時間数		講師	
				1年	2年	担当者名	所属
専攻科目	コース科目（6次産業化）	マーケティング論（応用）			30	星野康人	マーケティングコンサルタント
		フードシステムと食品流通			15	有識者、担当職員等	食品関連企業等
		経営管理基礎			15	石倉憲治、有識者	経営士、中小企業診断士等
		食品加工・貯蔵学			45	担当職員等	上北農産加工、県産業技術センター等
		食品衛生学			15	担当職員等	上十三保健所、関連団体
		6次産業化ゼミナール			45	担当職員、有識者	営農大学校
		6次産業化実践【専攻実習】			300	担当職員	営農大学校
		所属課程専攻実習					
		畑作	野菜・花き園芸栽培		225	成田、伊藤、松浦、對馬	営農大学校
		果樹	りんご・一般果樹栽培		225	土嶺、上原子、乙部	営農大学校
		畜産	肉用牛・乳用牛飼養		225	種市弥枝、中村夏奈	営農大学校
		卒業論文			90	岩﨑和美、佐々木直子	営農大学校
自由選択科目		農業機械操作Ⅲ（無人ヘリ）			120	インストラクター	スカイスクール
		茶道		30	30	千葉育子	裏千家淡交会
		華道		30	30	松田ツヤ	池坊

○実務経験のある教員による授業科目について

区分		科目	単位数	時間数	担当教員名	実務家教員の授業概要
【全課程共通】教養科目	必修科目	気象概論	1	15	藤田淳	青森県気象予報士会副会長・防災士として活動している講師を招請し、気象の基礎知識及び気象情報の利用法について理解を深めます。
専門共通科目【全課程共通】	必修科目	マーケティング論	2	30	星野康人　ほか	マーケティングコンサルタントやデザイナーの方々を講師として招請し、マーケティングの理論と手法を校内直売所等を活用しながら実践的に学びます。
		GAP活用論	1	15	有識者等	国際水準GAPに関する指導経験を有する専門家を講師として招請し、国際水準GAPの考え方や実践方法を学びます。
		農業簿記Ⅱ	1	30	和島市郎	税理士を講師として招請し、農業経営管理に必要な簿記記帳の方法や決算書及び確定申告書の作成手法を習得します。
		農業金融・農協概論	1	15	県農協中央会職員等	農協中央会の職員等を講師として招請し、農協の歴史や仕組み、農業金融の仕組み等について学習します。
		商品開発概論	1	15	(地独)青森県産業技術センター職員	企業の商品開発支援等に携わる試験研究機関の職員を講師として招請し、商品開発・評価の実践的手法を習得します。
		土壌肥料	2	30	下山邦博	元肥料会社職員を講師として招請し、栽培の基本となる土づくり及び肥料に関する知識を習得します。
		ICT・先端技術活用論	2	30	林和信、農業機械メーカー、堀明人　ほか	最先端農業機械の開発に携わった試験研究機関の職員や農業機械メーカー職員、ITコンサルタントなどを講師として招請し、農業におけるICTや最先端技術の活用手法を習得します。
		食品加工演習	1	30	そば店経営者 ほか	そば店でのそば打ち体験等を通じて、地域農畜産物の加工技術を習得します。
		6次産業化基礎	1	15	(地独)青森県産業技術センター職員　ほか	農業者や企業の食品加工支援等に携わる試験研究機関の職員等を講師として招請し、農業の6次産業化に係る基礎事項を学習します。
	選択科目	毒物・劇物	2	30	有識者 ほか	毒物・劇物の分析等に携わる有識者を講師として招請し、農薬を扱う際に必要となる毒物・劇物の概要を理解させるとともに、毒物劇物取扱者(一般)の資格取得を目指します。
		危険物	2	30	有識者 ほか	消防署での勤務経験を有する有識者を講師として招請し、危険物の取扱に関する基礎知識を習得させるとともに、危険物(乙種4類)の資格取得を目指します。
実務経験のある教員等による授業科目の単位数・授業時数　①			17	285		

区分			科目	単位数	時間数	担当教員名	実務家教員の授業概要
専攻科目	畑作園芸課程科目	共通科目	植物病理	2	45	(地独)青森県産業技術センター職員ほか	病害虫防除指導に携わる試験研究機関において、農業に関する病害の基礎的事項について学習します。
			作物昆虫	2	45	(地独)青森県産業技術センター職員ほか	病害虫防除指導に携わる試験研究機関において、農業に関する害虫の基礎的事項について学習します。
			農家実習	3	105	受入農家 ほか	県内の先進農家等に派遣し、農作業や生活体験を通じて実践的な技術や経営に対する考え方等を直に学び、農業観や職業観を養います。
		実務経験のある教員等による授業科目の単位数・授業時数　②		7	195		
	果樹課程科目	共通科目	植物病理	2	45	(地独)青森県産業技術センター職員ほか	病害虫防除指導に携わる試験研究機関において、農業に関する病害の基礎的事項について学習します。
			作物昆虫	2	45	(地独)青森県産業技術センター職員ほか	病害虫防除指導に携わる試験研究機関において、農業に関する害虫の基礎的事項について学習します。
			農家実習	3	105	受入農家 ほか	県内の先進農家等に派遣し、農作業や生活体験を通じて実践的な技術や経営に対する考え方等を直に学び、農業観や職業観を養います。
		実務経験のある教員等による授業科目の単位数・授業時数　②		7	195		
	畜産課程科目	共通科目	農家実習	3	105	受入農家 ほか	県内の先進農家等に派遣し、農作業や生活体験を通じて実践的な技術や経営に対する考え方等を直に学び、農業観や職業観を養います。
		実務経験のある教員等による授業科目の単位数・授業時数　②		3	105		
コース科目（6次産業化）			マーケティング論(応用)	2	30	星野康人	マーケティングコンサルタントを講師として招請し、マーケティングの理論と手法を校内直売所等を活用しながら実践的に学びます。
			フードシステムと食品流通	1	15	有識者等	食品加工産業、食品製造業、食品流通業などに従事する方々を講師として招請し、作った商品を消費者に届ける仕組みについて学習します。
			経営管理基礎	1	15	有識者等	社会保険労務士や中小企業診断士、経営士等を講師として招請し、経営の模擬体験等を通じて、労務管理や原価計算など、経営管理に必要となる基礎知識を習得します。
			食品加工・貯蔵学	2	45	有識者、担当職員等	企業や農家の食品分析等に携わる試験研究機関の職員を講師として招請し、加工品の生産に必要な加工・貯蔵技術を習得します。
			食品衛生学	1	15	担当職員等	食品の営業許可やHACCP導入支援等に携わる保健所等の職員を講師として招請し、食品衛生に関する知識を習得します。
			所属課程農家実習	3	105	受入農家 ほか	県内の先進農家等に派遣し、農作業や生活体験を通じて実践的な技術や経営に対する考え方等を直に学び、農業観や職業観を養います。
実務経験のある教員等による授業科目の単位数・授業時数　②				10	225		

区分		単位数	時間数
実務経験のある教員等による授業科目の単位数・授業時数(①+②)	畑作園芸課程	24	480
	(6次産業化コース選択者)	27	510
	果樹課程	24	480
	(6次産業化コース選択者)	27	510
	畜産課程	20	390
	(6次産業化コース選択者)	27	510
省令で定める基準単位数・授業時数		6	160

Ⅷ　講義内容

１　教養科目

教養科目：必修科目

科目名	生物（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	１	時間数	１５

指導のねらい	生活及び農業と関わりのある生物学の基礎知識を習得する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４〜６	１	生物の基本概念と基本構造 ～生物とは何か～	福士　広司
	２	生物の基本単位である細胞について	
	３	生物の増殖と生殖	
	４	エネルギーと酵素・代謝	
	５	光合成と窒素同化	
	６	感覚器官　～眼、耳の構造と仕組み～	
	７	環境と進化　人の暮らしと微生物	
	８	試験	
教科書、参考図書等		フォトサイエンス生物図録（数研出版） 講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験	

教養科目：必修科目

科目名	英会話（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	基礎的な英会話能力を習得する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４～５	1	コース概要，挨拶・自己紹介，レベルチェック	ﾘｯﾁ ｼﾞｮｾﾌ ｳｪｲﾄﾞ
	2	be動詞，How are you?（会話），be動詞のWh～疑問文	
	3	形容詞，be動詞のY/N疑問文：落とし物の手伝い（会話）	
	4	一般動詞，スケジュール・時間に関する表現	
	5	一般動詞の三単現，命令文	
	6	Do you like～?，比較:意見：Which do you like better?	
	7	主語と動詞の一致，買い物（会話）	
	8	スピーチ1，Do you～?，家族の紹介，現在進行形，招待（会話）	
	9	人物に関する単語（家族・職業など），現在進行形，未来形	
	10	How～疑問文	
	11	過去形1：一般動詞	
	12	過去形2: be動詞，場所に関する単語	
	13	There is/are～，Y/N疑問文（Is/Are there～?）	
	14	スピーチ2，数量詞（How many～?/How much～?），総合復習	
	15	試験	

教科書、参考図書等	Interchange 1A/ Cambridge University Press、講師作成資料
成績評価の方法	口述試験、筆記試験、授業態度、学習意欲

教養科目：必修科目

科目名	体育（実技）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	１	時間数	３０

指導のねらい	各種運動やスポーツ行事への参加を通して、体力の向上と健康増進を図る。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
６〜２	１〜12	球技（バドミントン、卓球、バレーボール等)、球技大会	萠出昌彦、営大職員
	13	保健講話（スマホ・ケータイ安全教室・人権教室）	
	14〜15	ウインタースポーツ	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

教養科目：必修科目

科目名	体育（実技）		履修区分	必履修	
学　年	２学年	単位数	１	時間数	３０

指導のねらい	各種運動やスポーツ行事への参加を通して、体力の向上と健康増進を図る。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
５〜２	１〜２	救命救急講習	萠出昌彦、営大職員
	３〜13	球技（バドミントン、卓球、バレーボール等)、球技大会	
	14〜15	ウインタースポーツ	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

教養科目：必修科目

科目名	気象概論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	１	時間数	１５

指導のねらい	生産管理や気象災害の防止に不可欠な気象情報は、官民問わず実用性の高い内容で提供されるようになった。一方で、利用者側のリスク管理情報として、十分に活かされていない現状がある。より円滑に活用できるよう、気象の基礎知識及び気象情報の利用法について理解を深めてもらうことを主な目的とする。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４～７	１	青森の気候と農業と気象観測	藤田　淳
	２	気象の基礎知識（雨の降る仕組み）	
	３	気象情報の見方と利用方法	
	４	気象災害とその対策（春～夏）	
	５	気象災害とその対策（秋）	
	６	気象災害とその対策（冬）と地球温暖化に伴う将来の農業	
	７	気象情報の活用方法と総まとめ	
	８	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲	

教養科目：必修科目

科目名	社会学（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	青森県の歴史・文化について理解を深める。また、社会人としての基礎知識を身につける。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
9	１～４	青森県の歴史・文化	豊川　良昭
～	5	農業・農村の振興事例	内村　ゆき美
1	6	選挙出前講座	有識者
	7	10代・20代に必要な金融知識	
	8	放射線講座	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		リアクションペーパー、レポート、授業態度	

教養科目：必修科目

科目名	法学（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	法律には、事件・事故を起こさないために予防する役割、そして、起きたときに解決する役割がある。よい社会にするために必要な法律について考える。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
2	1	法とは何か	廣瀬 孝壽
～	2	法の構造	
3	3	法的三段論法	
	4	法の解釈	
	5	判例と学説	
	6	法分野の概観	
	7	多角的に正義について考える	
	8	試験	
教科書、参考図書等		参考図書：『ケースで学ぶ実践への法学入門』（中央経済社）富永晃一ほか著	
成績評価の方法		筆記試験	

教養科目：選択科目

科目名	化学（講義）		履修区分	選択	
学　年	１学年	単位数	１	時間数	１５

指導のねらい	生活と関わりのある化学の基礎知識を習得する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
５〜６	１	化学の目的と物質の分類	松野　洋祐
	２	物質の構成粒子と元素	
	３	物質量	
	４	物質の反応①	
	５	物質の反応②	
	６	無機化合物	
	７	有機化合物	
	８	試験	
教科書、参考図書等		サイエンスビュー化学総合資料（実教出版） 講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験	

教養科目：選択科目

科目名	英語Ａ（講義）		履修区分	選択	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	英語の基礎的な文法等を確認しながら、文法力や読解力の向上を図る。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
11 ～ 12	1	自己紹介、 文法基本：be動詞、一般動詞（肯定・否定・疑問）、単語1	ﾘｯﾁ ｼﾞｮｾﾌ ｳｪｲﾄﾞ
	2	時制、単語2	
	3	助動詞、単語3	
	4	To不定詞、動名詞、単語4	
	5	比較級、最上級、原級、単語5	
	6	態（受動態など）、スピーチ1、疑問文1	
	7	関係詞、スピーチ2、疑問文2、総合復習	
	8	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、授業態度、学習意欲	

教養科目：選択科目

科目名	英語Ｂ（講義）		履修区分	選択	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	英語の応用的な文法等を学び、文法力や読解力の向上を図る。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
11 ～ 12	1	英語Ａの復習、英日翻訳の基礎、How疑問文	ﾘｯﾁ ｼﾞｮｾﾌ ｳｪｲﾄﾞ
	2	英日翻訳の基礎2、修飾語：接続詞、Can you tell/show me疑問文	
	3	農業に関する翻訳、専門語1、Why疑問文	
	4	営業・営農に関する翻訳、専門語2	
	5	長文翻訳、スピーチ1	
	6	日英翻訳の基礎、看板翻訳、和製英語、スピーチ2	
	7	日英翻訳の基礎2、日付・時間・住所などの翻訳、スピーチ3、総合復習	
	8	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、授業態度、学習意欲	

２　専門共通科目

専門共通科目：必修科目

科目名	農業経営（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	農業経営の基礎的知識を習得する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
7〜1	1	農業の現状と役割	佐々木　孝子
	2	農業経営の組織と運営	
	3	農業経営の会計①（収益、費用）	
	4	農業経営の会計②（複式簿記）	
	5	農業経営の会計③（減価償却）	
	6	農業経営の会計④（損益計算書、貸借対照表）	
	７～８	農業経営の会計⑤（原価計算、固定費、変動費）	
	９～12	農業法人の企業者活動	加来　聡伸
	13～14	農業経営の診断と設計	佐々木　孝子
	15	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲	

専門共通科目：必修科目

科目名	農業経営設計（演習）		履修区分	必履修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	３０

指導のねらい	農業経営を行う上で指針となる経営設計の必要性を認識させるとともに、試算計画法により計画の作成方法を習得する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜8	１～２	農業経営の指標、改善のポイント	佐々木　孝子
	３～４	原価計算、固定費、変動費	
	５～６	損益分岐点分析	
	７～８	ＳＴＲＡＣ分析	
	９～10	さまざまな経営計画の方法	
	11～14	パソコンによる農業経営設計の実際 a　試算計画法による計画の作成　　b　営農計画の作成	上北農林水産事務所職員
	15	試験	佐々木　孝子
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲	

専門共通科目：必修科目

科目名	農政時事（講義）		履修区分	必履修	
学　年	２学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	日本農業の現状と農政の移り変わり並びに世界の食糧事情及び環境問題等について理解する。あわせて新たな農業経営や農業情勢について学ぶ。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4 ～ 12	1	日本農業の基礎知識、青森県の農業	豊川　良昭
	2	日本の農政、肥料と農薬の基礎知識、 農業を進化させるテクノロジー、日本の食をめぐる動き	
	3	持続可能な農業に向けて、日本の食料事情	
	4	世界経済の中の日本農業	
	5	加速する農業のビジネス化	
	6	世界の食料事情と食をめぐる問題	
	７～９	環境にやさしい農業	山﨑　道晴 担当職員 （実践農家等）
	10～11	農福連携の取組	担当職員 （構造政策課）
	12～13	県内現場見学	営大職員ほか
	14～15	県内等優良経営体の取組事例聴講	

教科書、参考図書等	教 科 書：講師作成資料 参考図書：農業のすべてがわかる本（ナツメ社）
成績評価の方法	毎時の課題レポート、学習態度・意欲

専門共通科目：必修科目

科目名	マーケティング論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	就農後、自ら生産した農畜産物及びその加工品を有利に販売できるように、マーケティングの理論と手法を理解させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
５〜３	１	農業マーケティング概論	星野　康人
	２	直売所のニーズ調査（消費者グループインタビュー）	
	３	直売所のシーズ整理	
	４	商品コンセプトづくり	
	５〜６	テスト販売準備	
	７	テスト販売（消費者アンケート調査）	
	８	消費者アンケート調査の分析	
	９〜10	直売所マーケティング活動の発表	
	11〜12	起業とマーケティング	川守田　景子
	13	知的財産を活用した農畜産物販売	県知的財産支援ｾﾝﾀｰ
	14〜15	青森県産品のブランディングとマーケティング	担当職員（食ブランド・流通推進課ほか）
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		発表、レポート、学習態度	

専門共通科目：必修科目

科目名	海外農業と食料（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	海外における環境保全型農業の動向やアジア諸国の農業の現状と課題、県内外の農畜産物輸出に係る取組などの学習を通じて、我が国の農業が進むべき展開方向を理解する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
7～2	1	わが国における農産物貿易の特徴と課題	石塚　哉史
	2	グローバル化による貿易体制の変化と日本農業	
	3	世界の食と農を巡る問題①－世界の人口と食料問題－	
	4	世界の食と農を巡る問題②－穀物メジャーと農業投資－	
	5	食料・農業・農村基本計画について	担当職員（ジェトロ青森、東北農政局青森県拠点、構造政策課）
	6	水稲収穫量調査について	
	7	輸出拡大の取組について	
	8	海外農業研修について	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		レポート、リアクションペーパー、学習態度、学習意欲	

専門共通科目：必修科目

科目名	ＧＡＰ活用論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	国際水準ＧＡＰの考え方や実践方法などの学習を通じて、食のグローバル化に対応した農業者のあるべき姿と、我が国農業の進むべき展開方向を理解する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
5～10	1	ＧＡＰ概論　～持続可能な農業のグローバルスタンダード～	担当職員（農産園芸課）
	2	農場等のリスク評価のポイント	
	3	農場等のリスク発見とその対策	
	4	ＧＡＰ認証取得までの流れ	
11	５～８	模擬審査　～認証取得に向けた審査対応～	ＧＡＰ関係会社
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		確認テスト、リアクションペーパー、学習態度、学習意欲　等	

専門共通科目：必修科目

科目名	農畜産物流通論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	１	時間数	１５

指導のねらい	農畜産物の流通状況等の学習を通じて、我が国の農業が進むべき展開方向を理解する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
２～３	１	本講義のガイダンス、「流通」とは何か？	石塚　哉史
	２	青果物の流通システム	
	３	米の流通システム	
	４	花きの流通システム	
	５	畜産物の流通システム	
	６	食生活の変化と農畜産物流通	
	７	安心・安全な食生活と農畜産物流通	
	８	筆記試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、リアクションペーパー、レポート、学習態度、学習意欲	

専門共通科目：必修科目

科目名	農業簿記Ⅰ（演習）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	１	時間数	３０

指導のねらい	複式簿記とは何かを理解し、貸借対照表と損益計算書を作成するための基礎知識を習得する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
12〜1	1	簿記の役割、簿記の種類	佐藤　武
	2	簿記の基本 資産・負債と貸借対照表	
	3	簿記の基本 費用・収益と損益計算書	
	4	勘定科目と元帳	
	5	取　引	
	6	仕訳と転記１	
	7	仕訳と転記２	
	8	資産の記帳	
	9	減価償却の記帳	
	10	負債・資本の記帳	
	11	収益・費用の記帳	
	12	試算表	
	13	決算１	
	14	決算２	
	15	試験	

教科書、参考図書等	計算が苦手でも合格できる日商簿記３級 いちばんやさしいテキスト＆仕訳問題集（インプレス社） 講師作成資料
成績評価の方法	筆記試験、学習態度、学習意欲

専門共通科目：必修科目

科目名	農業簿記Ⅱ（演習）		履修区分	必履修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	３０

指導のねらい	農業経営管理に必要な簿記記帳についてパソコンを活用しながら習得するとともに、決算書及び確定申告書を作成する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
5〜7	１～５	農業経営簿記会計処理	和島　市郎
	６～14	所得税青色申告決算書作成	
	15	確定申告書作成	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、実技試験、学習態度、学習意欲	

専門共通科目：必修科目

科目名	農業金融・農協概論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	農業金融制度と農業協同組合についての概要を理解する。

月	校時		講義・演習・教育内容	担当者名
5〜6	1	農協概論	本県農協の概況	担当職員（農協中央会）
	2		農協運動の理念	
	3		農協の歴史、組織の仕組み	
	4		農協事業の特徴	
12〜2	5	農業金融	農業金融の仕組み	担当職員（団体経営改善課・日本政策金融公庫）
	6		認定農業者と農業制度資金	
	7		農業信用保証保険制度	
	8		農業経営収入保険、農業共済	
教科書、参考図書等			講師作成資料、私たちとＪＡ（全国農業協同組合中央会）、地上（ＪＡグループ家の光協会）	
成績評価の方法			筆記試験、レポート、学習態度、学習意欲	

専門共通科目：必修科目

科目名	農業概論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	農業を学ぶ上で必要な知識を習得するとともに、農業の概要についての理解を深める。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４〜７	１	日本の農業と食料供給、国土・環境保全	中村　豊
	２	農業・農村の役割とこれからの農業	
	３	作物の一生と栽培	
	４	作物の繁殖と育種	
	５	作物を取り巻く環境、生育を支える土	
	６	作物の養分と肥料	
	７	家畜の特性と飼育	
	８	中間試験	
	９	青森県の農林水産業	担当職員 （農林水産政策課）
	１０	農業に携わる心構え	松江　利英
	１１	農業の基礎知識（温度・面積・体積・農薬・土壌・肥料ほか）	豊川　良昭
	１２	農業を支える組織	
	１３	栽植計算、肥料計算、農薬の希釈計算１	
	１４	栽植計算、肥料計算、農薬の希釈計算２	
	１５	試験	

教科書、参考図書等	教 科 書：農業と環境（実教出版）、講師作成資料 参考図書：イラスト みんなの農業教室（家の光協会 星川清親）
成績評価の方法	筆記試験、レポート、学習態度、学習意欲

専門共通科目：必修科目

科目名	畜産概論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	家畜の生産から畜産物の利用までの概要を把握し、畜産についての基礎知識を総合的に理解させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜6	1	我が国における畜産の推移と現状	営大職員
	２～３	家畜化の歴史と主要品種の特徴	
	４～６	主要畜産物（乳・肉・卵）の生産と流通、アニマルウェルフェア	
	7	全体総括	
	8	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料、「畜産・酪農に関する基本的な事項」（農林水産省）、動画「がんばる！畜産！」（中央畜産会）	
成績評価の方法		筆記試験	

専門共通科目：必修科目

科目名	商品開発概論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	商品開発・評価の実践的手法を学ぶことで、顧客のニーズに合わせて「売れるモノをつくる」マーケットインの考え方についての理解を深める。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
10〜1	１～２	商品企画支援ツール（Ｖ－Ｃｕｐ）の概論 課題の調査（インターネット等による）	担当職員 (弘前工業研究所)
	３～４	Ｖ－Ｃｕｐステップ１による課題の整理	営大職員
	５～６	売場等の実地調査	
	7	調査内容の整理と商品企画立案	
	8	発表・ディスカッション	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		発表、学習態度	

専門共通科目：必修科目

科目名	環境保全農業概論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	１	時間数	１５

指導のねらい	持続的な農業の営みが環境形成に果たしている役割を理解するとともに、物質循環に基づいて、生産性及び化学肥料、農薬の施用による環境負荷の軽減を考慮した健康な土づくり等について、県内の先進事例調査等により理解を深める。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
10 ～ 11	１	みどりの食料システム戦略について	担当職員 （東北農政局青森県拠点ほか） 営大職員
	２	環境に優しい農業の実践（土作り、有機ＪＡＳ制度、特別栽培農産物制度）	
	３～５	環境保全農業の取組事例	
	６～７	現地視察研修	
	８	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		レポート、学習態度	

専門共通科目：必修科目

科目名	土壌肥料（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	就農時及び２学年のプロジェクト学習を進める上で必要な、栽培の基本となる土づくり及び肥料に関する知識を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
８〜11	1	土壌の基礎知識について	下山　邦博
	2	土壌の生成・分類	
	3	土壌の組成（粘土鉱物）	
	4	土壌の組成（腐植及び水と空気）	
	5	微生物のはたらき（種類と活動条件）	
	6	微生物のはたらき（窒素の循環など）	
	7	養分を保持するはたらき	
	8	土壌の酸性化と中和	
	9	作物の吸収する養分（１）	
	10	作物の吸収する養分（２）	
	11	施肥の原理について	
	12	肥料の分類について（肥料の歴史や販売肥料の法律など）	
	13	主要肥料の形態と反応（化学肥料・有機質肥料）	
	14	肥料の計算法など	
	15	試験	

教科書、参考図書等	教　科　書：土と施肥の新知識（(社)農山漁村文化協会） 補完教科書：土と微生物と肥料のはたらき（(社)農山漁村文化協会） 参 考 図 書：土壌肥料用語事典（(社)農村漁村文化協会）
成績評価の方法	筆記試験、学習態度、学習意欲、レポート

専門共通科目：必修科目

科目名	ＩＣＴ・先端技術活用論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	農業におけるＩＣＴや最先端技術の活用手法を習得する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
６〜12	１〜２	農業分野におけるＩＣＴの活用 （スマート農業及びデジタル経営の理解）	堀　明人
	３〜６	ＩＣＴ技術を活用した農産物の生産履歴情報伝達手法	林　久喜
	７〜８	スマート農業技術の現状と今後、最先端農業機械の開発事例	林　和信
	９	県内のスマート農業取組事例	担当職員 （農林水産政策課）
	10〜13	最先端農業機械等の仕組みと実践手法	農業機械ﾒｰｶｰ　等
	14	ビジネス分野におけるＩＣＴ等活用	村本　卓
	15	成果発表	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		発表、レポート、リアクションペーパー	

専門共通科目：必修科目

科目名	農業機械操作Ｉ【大特】（実習）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	１	時間数	４５

指導のねらい	農業機械（トラクター等）の構造・機能・作業安全等に関する基本的な知識・技能について理解させ、大型特殊自動車運転免許（農耕用）を取得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
５〜７	１〜２	トラクター及び作業機の始業・終業点検 トラクターの運転、取扱い操作 農作業安全	佐藤　武 中島　優太
	３〜４	基本運転操作練習Ｉ	
	５〜６	基本運転操作練習Ⅱ	
	７〜11	コース運転練習	
	12〜15	実技試験	
	16〜19	コース運転練習	
	20〜23	技能試験（青森県運転免許センター）	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		実技試験、学習態度、学習意欲	

専門共通科目：必修科目

科目名	農業機械整備（講義・演習）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	１５・３０

指導のねらい	トラクター等の農業機械の構造・機能・作業安全等に関する基本的な知識・技能について理解させ、農業機械のオペレーターとして必要な知識・技術を習得させる。

月	校時	講義内容	演習内容	担当者名
７〜８	１〜２	農業機械の構造・機能と取扱い 農業機械の安全作業 農業機械の効率利用		佐藤　武 中島　優太
	３	工具の取扱いについて(ビデオ)		
	４		工具の取扱い練習	
	５	ロータリー耕について(ビデオ)		
	６〜７		ロータリー耕練習	
	８	エアクリーナー清掃・バッテリー装着等について		
	９〜10		エアクリーナー清掃・バッテリー装着等練習	
	11	トラクターの始業点検について		
	12〜13		トラクターの始業点検練習	
	14〜15		技能試験	
	16	学科試験		
	17	作業機の三点リンク装着方法		
	18〜19		エンジンオイル・フィルターの交換方法	
	20〜23		技能試験	

教科書、参考図書等	教 科 書：トラクターの機能と基本操作（(社)日本農業機械化協会） 農業機械整備の基本技術（(社)日本農業機械化協会） 参考図書：ビデオ　安全確保のための正しい工具の使い方 ビデオ　耕うん作業を安全に（(社)日本農業機械化協会）
成績評価の方法	筆記試験、実技試験、学習態度、学習意欲

専門共通科目：必修科目

科目名	情報処理Ⅰ（講義・演習）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	１５・３０

指導のねらい	情報処理に関する基本的な知識・技能を習得させる。また、プロジェクトを進める上で必要な基本的な操作（ワープロ、エクセル）を実践的に習得させる。

月	校時	講義内容	演習内容	担当者名
６〜８	１〜２	パソコン操作の基礎解説		中野渡　美香
	３〜４	ワープロとは		
	5		パソコン基本操作	
	６〜９		ワープロによる文書・表・図形（地図）作成	
	10		ワード試験	
１〜２	11〜14	表計算とは		
	15〜22		表計算による表・グラフの作成 関数の活用	
	23		エクセル試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料		
成績評価の方法		実技試験、学習態度、学習意欲		

専門共通科目：必修科目

科目名	情報処理Ⅱ（講義・演習）		履修区分	必履修	
学　年	２学年	単位数	２	時間数	１５・３０

指導のねらい	パワーポイントを利用してプロジェクト発表を行うための基本操作を実践的に習得させる。

月	校時	講義内容	演習内容	担当者名
９〜11	１〜２	わかりやすい資料の作成方法		中野渡　美香
	３〜４	データの上手なとりまとめ方 パワーポイント基本解説		
	５〜９		パワーポイントの基本操作	
	10〜14		各種グラフの作成方法 図の作成及び貼付方法	
	15〜16	見やすい資料作成とは		
	17〜20		プロジェクト発表に向けたパワーポイント活用	
	21〜22	上手なプレゼンテーション		
	23		プレゼンテーション試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料		
成績評価の方法		実技試験、学習態度、学習意欲		

専門共通科目：必修科目

科目名	食品加工基礎（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	農産物の機能性や特性を生かした基礎的な加工技術を習得させるとともに、付加価値の高い農畜産物の生産と販売についての認識を深める。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜12	1	食品を扱う際の注意事項と機械・器具の使い方	営大職員
	２～３	乾燥加工、瓶詰加工（果実）	
	４～５	アイスクリーム加工	
	６～７	菓子加工、真空調理	
	８	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度・意欲	

専門共通科目：必修科目

科目名	地域食材論（講義）		履修区分	必履修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	県内に古くから伝わる食生活や食文化、郷土食の加工などの学習を通じて、農山漁村地域についての認識を深める。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜12	１～２	食生活と食文化、県内各地の地域特産物	営大職員
	３～４	郷土食を知ろう！	
	５～７	郷土食加工実習	
	８	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、レポート、学習態度・意欲	

専門共通科目：必修科目

科目名	食品加工演習（実験演習）		履修区分	必履修	
学　年	２学年	単位数	１	時間数	３０

指導のねらい	地域農畜産物の特性を生かした加工技術を習得させるとともに、付加価値の高い農畜産物の生産と販売についての認識を深める。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
９〜	１〜８	①パン、②レトルトカレー、③ピクルス、④りんごジュース	営大職員
	９〜12	＜畑作園芸課程＞ 豆腐、おから加工品 ＜果樹課程＞ ブルーベリージャム、ゼリー ＜畜産課程＞ ソーセージ	担当職員 （農産物加工研究所）
	13〜14	そば打ち	新堀　徹子
	15	試験	営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		実技試験、実習態度・意欲、レポート	

専門共通科目：必修科目

科目名	６次産業化基礎（講義）		履修区分	必履修	
学　年	１学年	単位数	１	時間数	１５

指導のねらい	農業の６次産業化に係る基礎事項について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
６〜１	１	６次産業化とは	担当職員 （食ブランド・流通推進課）
	２	６次産業化の推進施策、推進体制	
	３〜４	食品加工の基礎知識 食品の加工方法	担当職員 （農産物加工研究所）
	５	食品表示	担当職員 （上北農林水産事務所）
	６〜７	県内６次産業化事例現地研修	営大職員
	８	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、レポート、実習態度・意欲	

専門共通科目：選択科目

科目名	毒物・劇物（講義）		履修区分	選択	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	農薬を扱う際に必要となる毒物・劇物の概要を理解させるとともに、毒物劇物取扱者資格（一般用）の取得を目指す。

月	校時	講義・演習・教育内容		担当者名
７〜８	１〜６	関係法規	毒物及び劇物取扱法 毒物及び劇物取扱施行令 毒物及び劇物取扱施行規則 毒物及び劇物取扱指定令	営大職員
	７〜14	基礎化学	一般用薬剤 農業用薬剤 薬剤の貯蔵と解毒法 毒物・薬物の識別法	担当職員 (電力関係会社)
	15	試験		営大職員
教科書、参考図書等		毒物劇物取扱者試験受験必携（細谷出版） 毒物劇物取扱者試験合格テキスト&問題集（自由国民社）		
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲		

専門共通科目：選択科目

科目名	危険物（講義）		履修区分	選択	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	危険物の取扱いに関する基礎知識を習得させるとともに、危険物取扱者資格（乙種第４類）の取得を目指す。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
１〜３	１〜６	物理学と化学の基礎知識 a　基礎的物理学及び基礎的化学 b　燃焼の基礎知識 c　消火に関する基礎知識	渡部　哲也
	７〜９	危険物の性質並びにその火災予防及び消火方法 a　第４類危険物以外の危険物の概論 b　第４類危険物の概論	竹ヶ原　英夫
	10〜14	危険物に関する法令 a　消防法 b　危険物の規制に関する政令 c　危険物の規制に関する規則	
	15	試験	営大職員
教科書、参考図書等		乙４類危険物取扱者受験教科書（(株)向学院） コミック乙４合格物語（(株)ユニバース・リサーチ）	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲	

専門共通科目：選択科目

科目名	基礎ゼミナール（演習）		履修区分	選択	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	３０

指導のねらい	農業の基礎知識を習得させるとともに、農業技術検定３級又は２級の取得を目指す。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
２～３	１～14	作物、野菜・花き、果樹、畜産、農産物の加工 農業機械・農業施設、農業経営・農業とくらし・模擬演習	営大職員
	15	試験	
教科書 参考図書等		講師作成資料 日本農業技術検定２級テキスト（全国農業高等学校長協会） 日本農業技術検定 過去問題集（２級、３級）（日本農業技術検定協会）	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲	

専門共通科目：選択科目

科目名	農業機械操作Ⅱ【けん引】（実習）		履修区分	選択	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	４５

指導のねらい	農業機械におけるけん引作業機の構造・機能・作業安全等に関する専門的な知識・技能について理解させ、けん引免許（農耕車用）を取得させる。

月	校時	演習内容	担当者名
４～５	１～２	けん引直進後退練習	佐藤　武 中島　優太
	３～４	基本運転操作練習Ⅰ	
	５～６	基本運転操作練習Ⅱ	
	７～11	コース運転練習	
	12～15	実技試験	
	16～19	コース運転練習	
	20～23	技能試験（青森県運転免許センター）	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		実技試験、学習態度、学習意欲	

３　専攻科目

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	植物病理（講義・実験演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	２	時間数	１５・３０

指導のねらい	畑作・野菜・花き栽培において発生する病害の基礎的な事項について理解させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
５〜12	１〜６	植物の病気 病原の種類と性質 病気の診断方法 病気の発生生態 病気の防除	荒井　茂充
	７〜８	水稲	県産業技術センター（農林総合研究所）
	９〜12	野菜	県産業技術センター（野菜研究所）
	13〜23	畑作、ほ場での病害診断及び防除	営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、レポート、学習態度、学習意欲	

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	作物昆虫（講義・実験演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	２	時間数	１５・３０

指導のねらい	畑作・野菜・花き栽培において発生する害虫の基礎的な事項について理解させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
６〜12	１〜２	水稲、畑作	県産業技術センター（農林総合研究所）
	３〜６	野菜	県産業技術センター（野菜研究所）
	７〜23	害虫の生物的特性 害虫の発生と診断 作物保護と農薬等による害虫の防除 畑作、ほ場での虫害診断及び防除	営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、レポート、学習態度、学習意欲	

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	野菜園芸学（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	果菜類・葉菜類及び根菜類の形態・生理的特性等についての基礎知識の習得と理解を深める。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜8	1	野菜園芸の動向 a　消費動向　　b　生産動向　　c　価格動向	松浦　孝幸
	2	野菜の用途 a　消費形態と産業形態　　b　野菜の加工と用途	
	３〜４	野菜の鮮度保持 a　鮮度保持の概念と各種障害　　b　鮮度保持技術	
	５〜６	野菜の花芽分化 a　果菜類の花芽分化　　b　花芽分化と抽だい c　花芽分化と日長　　d　花芽分化と低温要求	
	7	野菜の作型	
	8	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料、野菜（実務出版）	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲、レポート	

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	野菜園芸各論（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	3	時間数	４５

指導のねらい	果菜類・葉菜類及び根菜類の生理・生態、栽培法に関する基礎知識を習得させる。また、本県野菜の生産概況と生産・経営上の課題について理解させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
9〜3	１〜７	果菜類（トマト､きゅうり､ピーマン､すいか､メロン､いちご）	成田　治 伊藤　和彦 松浦　孝幸 對馬　慶
	８〜12	葉茎菜類（キャベツ、はくさい、ほうれんそう、アスパラガス）	
	13〜18	根菜類（ながいも、ごぼう、だいこん、にんじん）	
	19〜22	ネギ類（にんにく、ねぎ、たまねぎ）	
	23	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料、やさい栽培の手引き（青森県）、 新野菜つくりの実際【果菜Ⅰ、果菜Ⅱ、葉菜、根茎菜】（農文協）	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲、レポート	

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	花き園芸学（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	花きの具体的な栽培法と関連づけ、花きの分類や花きの構造、生理・生態とそれを利用した開花調節技術、貯蔵や病害虫防除の基本について理解させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜9	1	花き生産の現状 種類と分類	對馬　慶 成田　治
	2	産地形成の条件と生産形態 花きの形態と構造	
	3	繁殖 a　種子繁殖　　b　栄養繁殖　　c　組織培養	
	4	生育と開花調節 a　発育相　　b　休眠　　c　ロゼット　　d　幼若性 e　花芽分化　　f　バーナリゼーション　　g　花熟	
	5	生育と開花調節 a　温度による開花調節　　b　日長処理による開花調節 c　DIFによる草丈の調節　　d　生長調節物質による生育・開花調節	
	6	開花調節の実際	
	7	花きの鮮度保持と貯蔵 病害虫と防除	
	8	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料、草花（実教出版（株））、花卉園芸総論（(株)養賢堂）	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲、レポート	

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	花き園芸各論（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	花きそれぞれの具体的な生理・生態と、それを利用した開花調節技術、産地の状況について理解させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
10〜2	１〜２	きく、トルコギキョウ（生理・生態、分類、作型、開花調節方法）	對馬　慶 成田　治
	3	シクラメン（生理・生態、作型、栽培管理）	
	4	バラ（生理・生態、作型、栽培管理）	
	5	ゆり類（生理・生態、作型、球根貯蔵）	
	6	カンパニュラ・アルストロメリア（生理・生態、作型、栽培管理）	
	7	デルフィニウム（生理・生態、作型、栽培管理）	
	8	試験	
教科書、参考図書等		教 科 書：講師作成資料、草花（実教出版（株）） 参考図書：花卉園芸総論（(株)養賢堂）、青森県花き栽培の手引き	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲、レポート	

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	稲作各論（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	１	時間数	１５

指導のねらい	稲作経営の特徴と、水稲の生理生態及び米の流通についての基礎的な知識を習得する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ ８	１	稲の原種と日本の稲 米の消費量と品種 米の流通	松浦　孝幸
	２	青森県の主な品種と育種方向 稲の生育相と主な生理生態 青森県の冷害	
	３	育苗管理 　塩水選と種子消毒 　稚苗、中苗、成苗の播種量、育苗日数及び目標葉齢 　温度管理	
	４	本田管理と生育ステージ 　水管理の基本 　基肥及び追肥 　田植え～穂首分化期 　幼穂形成期～出穂・開花期 　登熟期～収穫期	
	５	主要雑草の防除法及び見分け方	
	６	雑草及び病害虫防除 　育苗中の病害虫 　本田における病害と防除法、虫害と防除法	
	７	営大における稲作 　高密度播種苗移植栽培 　無人ヘリ・ドローン活用	
	８	筆記試験	

教科書、参考図書等	講師作成資料、作物（実教出版）
成績評価の方法	筆記試験、学習態度、学習意欲、レポート

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	野菜・花き園芸ゼミナール（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	３	時間数	４５

指導のねらい	地域及び自家の農業経営が抱える生産及び流通上の問題点を把握し、その解決方法をプロジェクト課題として認識させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４〜３	１〜２	プロジェクト設計検討会（２学年）聴講	成田　治 伊藤　和彦 松浦　孝幸 對馬　慶
	３〜６	プロジェクト学習の進め方	
	7	プロジェクト学習公開補助	
	8	我が家の農業経営調査方法について （データ収集は夏季休業中に行う）	
	９〜10	我が家の農業経営データ整理	
	11	我が家の農業経営分析方法について	
	12〜13	我が家の農業経営分析	
	14〜15	我が家の農業経営上の問題点抽出	
	16	プロジェクト学習課題の設定について	
	17	プロジェクト学習実施計画作成	
	18〜19	プロジェクト学習計画作成	
	20	プロジェクト学習実施計画課内検討	
	21	プロジェクト学習計画修正	
	22	プロジェクト学習実施計画校内検討会（演習）	
	23	プロジェクト学習実施計画成案作成（演習）	

教科書、参考図書等	講師作成資料
成績評価の方法	学習態度、学習意欲

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	野菜・花き園芸ゼミナール（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	設定したプロジェクト学習課題の遂行上の問題点の把握と対応、調査データの収集・分析方法について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜12	１～４	プロジェクト設計検討会報告・聴講	成田　治 伊藤　和彦 松浦　孝幸 對馬　慶
	5	プロジェクト学習遂行上の問題点整理	
	6	プロジェクト学習調査データ整理について	
	7	プロジェクト学習成果取りまとめ方法について	
	8	プロジェクト学習発表方法について	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	野菜・花き園芸ゼミナール（実験演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	３０

指導のねらい	設定したプロジェクト学習課題を遂行するための、調査・化学分析手法及び担当作物の生育状況を把握する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜1	1	担当作物の調査方法（施設栽培作物）	成田　治 伊藤　和彦 松浦　孝幸 對馬　慶
	2	作物・土壌の化学分析方法	
	３～４	圃場巡回時学習（施設野菜・花きの生育診断、病害虫診断）	
	5	担当作物の調査方法（露地栽培作物）	
	6	プロジェクト学習実施内容公開	
	7	圃場巡回時学習（露地野菜の生育診断・病害虫診断）	
	8	〃　　（野菜・花きの収穫適期診断）	
	９～13	プロジェクト学習成果取りまとめ	
	14～15	プロジェクト学習成果課内検討、校内発表会	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	作物育種（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	１	時間数	１５

指導のねらい	野菜及び花きにおける品種のもつ意義とその育種方法について具体的事例を示しながらその理論と実際の手法を習得する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ ８	１	メンデルの法則と育種 　遺伝とはなにか、優性の法則、独立の法則、分離の法則 　雑種第一代と雑種強勢、遺伝子型と表現型 品種と育種目標 　品種の定義、育種の定義	伊藤　和彦
	２	品種と育種目標 　育種目標、育種過程と選択及び淘汰 野菜の繁殖様式 　自家受精、他家受精 　自家不和合性、雄性不稔、栄養繁殖	
	３	育種方法 　分離育種法、交雑育種法、突然変異育種法	
	４	育種方法 　交雑が困難な場合の育種法、胚、子房培養及び細胞融合、 　遺伝子組み換え 作物別育種方向と育種方法 　青森県の主力野菜の育種方向、ながいも、にんにく、トマト等 　自分のプロジェクト作物の育種方向	
	５	花きのライフサイクルと育種の役割 日本の花き育種の現状と課題	
	６	花き育種の目的 遺伝資源収集と保存 育種方法 　交雑育種、分離育種、突然変異育種	
	７	花の育種の現状と課題 花の育種目的と方向 種苗法による新品種の保護	
	８	試験	

教科書、参考図書等	講師作成資料
成績評価の方法	筆記試験、学習態度、学習意欲、レポート

専攻科目：畑作園芸課程

科目名	農家実習（講義・実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	３	時間数	１５・９０

指導のねらい	技術的、経営的に優れた農業者等のもとに派遣し、生活体験を通じて実践的な技術や経営に対する考え方等を学び、将来の農業経営等に役立てる。

月	校時	講義内容	実習内容	担当者名
６・９	１～２	実習に係る事前打合せ 派遣先市町村の主要農畜産物等に関する調査		営大職員
	３～４	農家実習説明会		
	５～49		受入農家の営農計画に沿った実習及び生活体験、実習日誌の記録	受入農家等
	50～53	農家実習報告会、 実習レポート・礼状作成		営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料		
成績評価の方法		学習態度、実習日誌、実習報告会、受入農家評価等		

専攻科目：畑作園芸課程

科目名	卒業論文（演習）		履修区分	必修	
学 年	２学年	単位数	３	時間数	９０

指導のねらい	２年間の実践学習の成果を取りまとめることで､将来の営農計画の参考とする。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
12～2	１～45	卒業論文取りまとめ	成田　治 伊藤　和彦 松浦　孝幸 對馬　慶
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲、レポート	

専攻科目：畑作園芸課程：野菜

科目名	野菜園芸栽培【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	１１	時間数	４９５

指導のねらい	プロジェクト学習による野菜園芸経営の実践と課題解決の実践を通じて栽培技術、経営管理能力、課題解決方法について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ 12	１～248	野菜・水稲の栽培・調査研究・販売実践、 播種、育苗管理、接ぎ木、耕耘、施肥、畦立て、マルチング、 定植、かん水、追肥、培土、人工授粉、支柱・ネット張り、 摘果、防除、生育調査、土壌管理、収穫、収量調査、出荷調製、 出荷、経済性調査、直売所での対面販売、栽培履歴の記帳	成田　治 伊藤　和彦 松浦　孝幸 對馬　慶
教科書、参考図書等	講師作成資料		
成績評価の方法	学習態度、学習意欲		

専攻科目：畑作園芸課程：野菜

科目名	野菜園芸栽培【専攻実習】（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	３	時間数	４５

指導のねらい	施設・露地野菜及び水稲栽培を通じて、栽培・経営上の問題点を把握するとともに、プロジェクト学習課題を設定・実践し、課題解決方法について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4 ～ 12	1	担当作物の調査方法等について、ハウス管理について	成田　治 伊藤　和彦 松浦　孝幸 對馬　慶
	2	野菜育苗の意義・育苗管理、ながいも植え付けの注意点	
	3	トマトのホルモン処理について（野菜・花苗販売実習）	
	4	トマト・なす・ピーマン・ねぎ定植、水稲田植えの注意点	
	5	簡易被覆、マルチの効果、ねぎの培土と効果	
	6	野菜の生育診断について、露地野菜防除の注意点	
	7	新しい育苗方式（セル苗）、にんにくの収穫・乾燥方法	
	8	キャベツ、はくさいの播種・育苗（野菜・花販売実習）	
	9	トマト・なす・ピーマンの収穫の方法・整枝方法	
	10	直売所出荷の規格・包装、販売実習での接客マナー	
	11	水稲の水管理・幼穂形成	
	12	だいこん播種、はくさい定植の注意点、緑肥の効果	
	13	にんじんの収穫の注意点（野菜・花販売実習）	
	14	にんにくの植え付け方法、緑肥の効果	
	15	いちごの花芽分化と定植時期	
	16	野菜の出荷調製方法・貯蔵	
	17	有機農産物の栽培、稲刈りの注意点（野菜・花販売実習）	
	18	業務用野菜栽培と需要	
	19	だいこん、ねぎの収穫方法	
	20	はくさい、キャベツの収穫適期（野菜・花販売実習）	
	21	ながいもの収穫（野菜・花販売実習）	
	22	ハウスの土壌消毒について、野菜の新品種について	
	23	養液栽培と養液土耕	

教科書、参考図書等	講師作成資料
成績評価の方法	学習態度、学習意欲、レポート

専攻科目：畑作園芸課程：花き

科目名	花き園芸栽培【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	１１	時間数	４９５

指導のねらい	プロジェクト学習による花き園芸経営の実践と課題解決の実践を通じて栽培技術、経営管理能力、課題解決方法について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ 12	１～248	花きの栽培・販売実践 播種、育苗管理、耕耘、施肥、畦立て、マルチング、定植、 かん水、鉢上げ、支柱・ネット張り、追肥、挿し芽、 わき芽かき、防除、土壌管理、生育調査、収穫、収量調査、 出荷調製、出荷、直売所での対面販売、栽培履歴の記帳、 経済性調査	對馬　慶 成田　治

教科書、参考図書等	講師作成資料
成績評価の方法	学習態度、学習意欲、レポート

専攻科目：畑作園芸課程：花き

科目名	花き園芸栽培【専攻実習】（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	３	時間数	４５

指導のねらい	花き栽培を通じて、栽培・経営上の問題点を把握するとともに、プロジェクト学習課題を設定し、課題解決方法について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４～12	1	担当作物の調査方法、ハウス管理について	對馬　慶
	2	トルコギキョウの播種・栽培について	成田　治
	3	花壇の作り方について（野菜・花苗販売実習）	
	4	シクラメンの栽培について	
	5	宿根草の栽培について	
	6	プリムラの栽培について	
	7	花きの農薬の取扱いについて	
	8	チップバーンの発生について（野菜・花き販売実習）	
	9	青森県の花き産業について	
	10	ストックの栽培について	
	11	きくの収穫について	
	12	きくの採穂について	
	13	ＬＡユリの収穫について	
	14	土壌消毒の方法と実際	
	15	デルフィニウムの種類と栽培	
	16	花市場の仕組みと販売方法について	
	17	トルコギキョウの収穫について　（野菜・花き販売実習）	
	18	ゆり類の収穫について	
	19	苗ものについて	
	20	切り花経営と鉢花経営の違いについて（野菜・花き販売実習）	
	21	育苗培土の作り方（野菜・花販売実習）	
	22	プリムラの出荷方法について	
	23	養液栽培の種類について	

教科書、参考図書等	講師作成資料
成績評価の方法	学習態度、学習意欲、レポート

専攻科目：畑作園芸課程：共通

科目名	野菜・花き園芸栽培【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	１３	時間数	５８５

指導のねらい	野菜、水稲及び花きの生理・生態を理解するとともに、栽培技術及び生産物の販売について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4 ～ 3	１～293	野菜・水稲及び花きの栽培・販売実践 播種、育苗管理、接ぎ木、耕耘、施肥、畦立て、マルチング、定植、追肥、かん水、鉢上げ、培土、人工授粉、支柱・ネット張り、挿し芽、わき芽かき、摘果、防除、土壌管理、収穫、出荷調製、出荷、直売所での対面販売、栽培履歴の記帳	成田　治 伊藤　和彦 松浦　孝幸 對馬　慶
教科書、参考図書等	講師作成資料		
成績評価の方法	学習態度、学習意欲		

専攻科目：畑作園芸課程：６次産業化コース

科目名	野菜・花き園芸栽培【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	５	時間数	２２５

指導のねらい	野菜・花き園芸経営に必要となる栽培技術、経営管理能力、課題解決方法について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4 ～ 12	１～113	野菜・水稲及び花きの栽培・調査研究・販売実践、 播種、育苗管理、接ぎ木、耕耘、施肥、畦立て、マルチング、定植、かん水、鉢上げ、追肥、培土、人工授粉、支柱・ネット張り、挿し芽、わき芽かき、摘果、防除、生育調査、土壌管理、収穫、収量調査、出荷調製、出荷、経済性調査、直売所での対面販売、栽培履歴の記帳	成田　治 伊藤　和彦 松浦　孝幸 對馬　慶
教科書、参考図書等	講師作成資料		
成績評価の方法	学習態度、学習意欲		

専攻科目：果樹課程：共通

科目名	植物病理（講義・実験演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	２	時間数	１５・３０

指導のねらい	果樹の主要病害の発生生態及び被害の状況を理解し、現場における診断方法及び適切な防除法を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
５〜12	１〜６	植物の病気 病原の種類と性質 病気の診断方法 病気の発生生態 病気の防除	荒井　茂充
	７〜10	りんご	県産業技術センター（りんご研究所）
	11〜12	一般果樹	県産業技術センター（県南果樹部）
	13〜23	ほ場における病害診断及び防除	営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料、りんご園の病害虫手帳（(公財)青森県りんご協会） りんご生産指導要項（(公財)青森県りんご協会）	
成績評価の方法		筆記試験、レポート、学習態度、学習意欲	

専攻科目：果樹課程：共通

科目名	作物昆虫（講義・実験演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	２	時間数	１５・３０

指導のねらい	果樹の主要害虫の発生生態及び被害の状況を理解し、現場における診断方法及び適切な防除法を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
６〜12	１〜４	りんご	県産業技術センター（りんご研究所）
	５〜６	一般果樹	県産業技術センター（県南果樹部）
	７〜23	害虫の生物的特性 害虫の発生と診断 作物保護と農薬等による害虫の防除 ほ場における虫害診断及び防除	営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料 りんご生産指導要項（(公財)青森県りんご協会）	
成績評価の方法		筆記試験、レポート、学習態度、学習意欲	

専攻科目：果樹課程：共通

科目名	果樹園芸学（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	りんご及び一般果樹の生理・生態等に関する基礎知識を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ ７	１ ２ ３ ４ ５ ６～８ ９～10 11～12 13～14 15	果樹の種類 果樹の栽培適地 果樹園の開設 苗木の生産 果樹の一年及び花芽形成の促進 果樹の一年間の生長の動きと管理 整枝・せん定 土壌管理、かん水及び施肥 施設栽培 試験	土嶺　康憲 上原子　毅 乙部　基
教科書、参考図書等	新版図集 果樹栽培の基礎知識（(社)農山漁村文化協会）		
成績評価の方法	筆記試験		

専攻科目：果樹課程：共通

科目名	果樹園芸各論（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	５	時間数	７５

指導のねらい	りんご及び一般果樹の栽培・経営等に関する基礎知識を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
８ ～ ３	１	果実の消費と販売・流通	土嶺　康憲 上原子　毅 乙部　基
	２～32	栽培各論（経営上の特徴、品種、結実管理、生理障害、病害虫防除、収穫・貯蔵） ａ　りんご（４～12月まで）の栽培管理 ｂ　ぶどう、おうとう、西洋なし、日本なし、もも、うめ・あんず、ブルーベリー・カシスの栽培管理	
	33～37	整枝・せん定（目的、仕立て方の種類、せん定用語、方法）	
	38	試験	
教科書、参考図書等	新りんご作り１２か月（青森県りんご試験場園生会） りんご生産指導要項（(公財)青森県りんご協会） わい化樹の仕立て方（(公財)青森県りんご協会） 特産果樹栽培指導要項（青森県）		
成績評価の方法	筆記試験		

専攻科目：果樹課程：共通

科目名	りんご・一般果樹ゼミナール（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	３	時間数	４５

指導のねらい	２年次のプロジェクト学習課題遂行のため基礎知識を習得し、具体的な課題の設定方法について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４〜３	１〜23	プロジェクト設計検討会(２学年)聴講	土嶺　康憲 上原子　毅 乙部　基
		生態を基準にした病害虫防除	
		改植、接木等による園地の充実	
		訪花昆虫と人手受粉	
		摘果と着果量	
		樹勢の判断	
		２年生のプロジェクト課題解説	
		プロジェクトに関する意向整理	
		果実の着色管理	
		果実熟度の進行と収穫適期	
		等級別選果と貯蔵	
		果実の外観品質と食味	
		目標樹形に応じた整枝とせん定	
		プロジェクト課題と内容の仮決定	
		試験区と調査項目の設定方法	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：果樹課程：共通

科目名	りんご・一般果樹ゼミナール（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	設定したプロジェクト学習課題の遂行上の問題点の把握と対応、調査データの収集・分析方法について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4	1	プロジェクト設計検討会報告・聴講	土嶺　康憲
～	2	栽培作物管理上の問題点整理	上原子　毅
12	3	プロジェクト学習中間取りまとめについて	乙部　基
	4	中間検討及び今後の方向性の見直しについて	
	5	文献整理	
	6	調査データの整理と多面的検討について	
	7	経営的視点と試験成績取りまとめ方法について	
	8	プロジェクト発表方法について	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：果樹課程：共通

科目名	りんご・一般果樹ゼミナール（実験演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	３０

指導のねらい	設定したプロジェクト学習課題を遂行するための、調査・化学分析手法及び担当作物の生育状況を把握する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4	1	生態調査の方法（発芽、展葉）	土嶺　康憲
～	2	春期の病害虫診断及び防除法	上原子　毅
1	3	生態調査の方法（開花、満開、落花）	乙部　基
	4	開花結実調査の方法	
	5	着果量及び果実肥大調査の方法	
	6	プロジェクト学習実施内容公開	
	7	夏期の生育診断、病害虫診断法	
	8	果実熟度、収穫適期診断の方法	
	9	果実品質調査法	
	10	貯蔵条件及び追熟調査の方法	
	11	食味調査及びアンケート実施方法	
	12	収穫後樹体調査の方法（幹周肥大量、新梢伸長量、花芽率）	
	13	調査データのとりまとめ	
	14～15	プロジェクト学習成果課内検討、校内発表会	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：果樹課程：共通

科目名	果樹育種（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	りんごの品種の変遷と育種方法及び種苗法等関連法規を理解させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜5	1	交雑育種と突然変異	土嶺　康憲
	2	自家不和合性、交雑和合性と３倍体品種	
	3	りんご主要品種の栽培特性及び果実特性	今　智之
	4	りんご育種方法、品種の変遷	
	5	海外のりんご事情	
	6	海外のりんご育種と栽培技術	
	7	種苗法	土嶺　康憲
	8	試験	
教科書、参考図書等		りんご生産指導要項（(公財）青森県りんご協会） 青森県のりんご（(公財)青森県りんご協会)、講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、レポート	

専攻科目：果樹課程

科目名	農家実習（講義・実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	３	時間数	１５・９０

指導のねらい	技術的、経営的に優れた農家や農業法人等に派遣し、農作業や生活体験を通じて実践的な技術や経営に対する考え方等を直に学び､農業観や職業観を養う。

月	校時	講義内容	実習内容	担当者名
６・９	１～２	実習に係る事前打合せ 派遣先市町村の主要農畜産物等に関する調査		営大職員
	３～４	農家実習説明会		
	５～49		受入農家の営農計画に沿った実習及び生活体験、実習日誌の記録	受入農家等
	50～53	農家実習報告会、 実習レポート・礼状作成		営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料		
成績評価の方法		学習態度、実習日誌、実習報告会、受入農家評価等		

専攻科目：果樹課程

科目名	卒業論文（演習）		履修区分	必修	
学 年	２学年	単位数	３	時間数	９０

指導のねらい	２年間の実践学習の成果を取りまとめることで､将来の営農計画の参考とする。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
12～2	１～45	卒業論文取りまとめ	土嶺　康憲 上原子　毅 乙部　基
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲、レポート	

専攻科目：果樹課程：りんご

科目名	りんご栽培【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	１１	時間数	４９５

指導のねらい	りんご栽培の一連の流れと技術を、座学と実習を通じ習得させ、自営者としての資質向上を図る。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ 12	１～248	りんごの栽培・販売実践・プロジェクト学習 １年の生活周期と主な作業内容、園地管理、施肥と土壌管理、園地造成・改植、わい化栽培と普通栽培、病害虫防除、機械を活用した防除と安全操作、樹体管理、災害対策、授粉、摘花・摘果、着色管理、生育調査、生育観測、気象記録、収穫、収穫調査、出荷調製、出荷、機械施設利用、流通加工、プロジェクト学習まとめ、プロジェクト研究評価、直売所での対面販売、生産履歴の記帳	土嶺　康憲 上原子　毅 乙部　基
教科書、参考図書等		りんご生産指導要項（(公財)青森県りんご協会）	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：果樹課程：りんご

科目名	りんご栽培【専攻実習】（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	３	時間数	４５

指導のねらい	りんご栽培の一連の流れと技術を、座学と実習を通じ習得させ、自営者としての資質向上を図る。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４～12	１～２	生育調査、生育観測、気象記録、生産履歴、トレーサビリティ	土嶺　康憲 上原子　毅 乙部　基
	３	１年の生活周期と主な作業内容、園地管理の実際、樹勢の違いによる施肥方法	
	４～５	樹体管理、生態と観察方法、品種ごとの摘果、摘果方法 病害虫の見方と防除方法	
	６～７	品種ごとの摘花・摘果方法、園地の造成・改植 病害虫の見方と防除方法	
	８～９	品種ごとの摘花・摘果方法、病害虫の見方と防除方法	
	10～11	摘花・摘果、早生品種の着色管理 病害虫の見方と防除方法	
	12～14	中生品種の着色管理、早生品種の収穫・出荷調製、機械施設利用	
	15～17	晩生品種の着色管理、中生品種の収穫・出荷調製	
	18～20	晩生品種の着色管理、晩生品種の収穫・出荷調製	
	21	りんごの流通と加工	
	22～23	病害虫防除暦と年間作業計画表の作成	

教科書、参考図書等	りんご生産指導要項（(公財)青森県りんご協会）
成績評価の方法	学習態度、学習意欲、レポート

専攻科目：果樹課程：一般果樹

科目名	一般果樹栽培【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	１１	時間数	４９５

指導のねらい	一般果樹の生理・生態に合わせた適期作業及び販売を意識した果実品質管理法を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ 12	１～248	一般果樹の栽培・販売実践・プロジェクト学習 定植、施肥、接ぎ木、挿し木、摘蕾、摘花、人工授粉、摘果、摘心、防除、生育調査、除草、徒長枝整理、着色管理、収穫、収量調査、選別、出荷、経済性調査、鳥獣害対策、気象災害対策、整枝せん定、直売所での対面販売、栽培履歴の記帳	土嶺　康憲 上原子　毅 乙部　基
教科書、参考図書等		特産果樹栽培指導要項（青森県）	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：果樹課程：一般果樹

科目名	一般果樹栽培【専攻実習】（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	３	時間数	４５

指導のねらい	一般果樹の生理・生態に合わせた適期作業及び販売を意識した果実品質管理法を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜12	1	一般果樹の調査方法等について	土嶺　康憲 上原子　毅 乙部　基
	2	ぶどうの無加温ハウス栽培について	
	3	一般果樹の病害虫防除について（防除暦の検討）	
	4	おうとうの毛ばたき授粉について	
	5	なしの摘蕾・摘花について	
	6	ぶどうの摘芽・摘梢について	
	7	おうとう、なし、ももの摘果について	
	8	おうとうの裂果防止対策について	
	9	ぶどうのジベレリン処理について	
	10	ぶどうの新梢誘引、摘心、花穂の整形について	
	11	おうとうの収穫・出荷調製の注意点	
	12	ブルーベリーの収穫・出荷調製の注意点	
	13	ももの収穫・出荷調製の注意点	
	14	徒長枝整理の方法について	
	15	直売所出荷の規格・包装、販売実習での接客マナー	
	16	生理障害とその対策	
	17	ぶどうの収穫・出荷調製の注意点	
	18	日本なしの収穫・出荷調製の注意点	
	19	西洋なしの収穫適期の判定方法について	
	20	西洋なしの予冷・出荷調製・追熟方法について	
	21	一般果樹の施肥について	
	22〜23	一般果樹の整枝せん定法について	

教科書、参考図書等	特産果樹栽培指導要項（青森県）
成績評価の方法	学習態度、学習意欲、レポート

専攻科目：果樹課程：共通

科目名	りんご・一般果樹栽培【専攻実習】(実習)		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	１３	時間数	５８５

指導のねらい	りんご・一般果樹栽培の一連の流れと技術を、座学と実習を通じ習得させ、自営者としての資質向上を図る。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ ３	１～293	＜りんご栽培＞ １年の生活周期と主な作業内容、園地管理、施肥と土壌管理、園地造成・改植、わい化栽培と普通栽培、病害虫防除、災害対策、樹体管理、授粉、摘花・摘果、栽培と気象、生育調査、生育観測、気象記録、収穫・出荷調製、機械施設利用、流通加工、生産履歴の記帳 ＜一般果樹栽培＞ 一般果樹の栽培・販売実践 定植、施肥、接ぎ木、挿し木、摘蕾、摘花、人工授粉、摘果、摘心、防除、除草、徒長枝整理、着色管理、収穫、選別、出荷、鳥獣害対策、気象災害対策、整枝せん定、直売所での対面販売、栽培履歴の記帳	土嶺　康憲 上原子　毅 乙部　基

教科書、参考図書等	りんご生産指導要項（(公財)青森県りんご協会） 特産果樹栽培指導要項（青森県） 新版図集 果樹栽培の基礎知識（(社)農山漁村文化協会）
成績評価の方法	学習態度、学習意欲、実技

専攻科目：果樹課程：６次産業化コース

科目名	りんご・一般果樹栽培【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	５	時間数	２２５

指導のねらい	りんご・一般果樹栽培の一連の流れと技術を、座学と実習を通じ習得させ、自営者としての資質向上を図る。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ 12	１～113	＜りんご栽培＞ １年の生活周期と主な作業内容、園地管理、施肥と土壌管理、園地造成・改植、わい化栽培と普通栽培、病害虫防除、機械を活用した防除と安全操作、樹体管理、授粉、摘花・摘果、着色管理、生育調査、生育観測、気象記録、収穫・出荷調製、機械施設利用、流通加工、生産履歴の記帳 ＜一般果樹栽培＞ 一般果樹の栽培・販売実践 定植、施肥、接ぎ木、挿し木、摘蕾、摘花、人工授粉、摘果、摘心、防除、生育調査、除草、徒長枝整理、着色管理、収穫、収量調査、選別、出荷、経済性調査、鳥獣害対策、気象災害対策、整枝せん定、直売所での対面販売、栽培履歴の記帳	土嶺　康憲 上原子　毅 乙部　基
教科書、参考図書等		りんご生産指導要項（(公財)青森県りんご協会） 特産果樹栽培指導要項（青森県）	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	家畜繁殖（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	生産性向上のための家畜繁殖に関する理論を学び、家畜人工授精の基礎を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
5〜1	１～２	生殖器の形態及び機能	三浦　弘
	３～４	繁殖機能に係わるホルモン及び神経支配 （性ホルモンの種類及び作用）	
	５～６	雌の繁殖生理 （卵子形成、繁殖の周期性及び性成熟、発情周期に伴う生殖器及び行動の変化）	
	７～８	雄の繁殖生理 （造精機能と射精の機序、精液量及び精子数並びに精液の理化学的性状、精子の形態及び構造、精液性状に影響する要因）	種市　弥枝
	９～10	交配・受精・着床 （受精及び受精卵の発育、雌生殖道内における精子及び卵子の移動並びにその機能の変化、受精（交配）適期）	
	11	生殖工学	
	12～13	妊娠と分娩	三浦　弘
	14～15	繁殖障害の概念及び原因	

教科書、参考図書等	教 科 書：講師作成資料 参考図書：家畜人工授精講習会テキスト（日本家畜人工授精師協会） 畜産指導要項（青森県）
成績評価の方法	筆記試験、レポート、学習態度、学習意欲

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	飼料作物（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	飼料作物の種類、その栽培・利用法について理解させるとともに、適正な土壌改良・維持管理に関する知識を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
5〜8	１～３	飼料作物の種類及び特徴、収量調査方法、作業機械	営大職員
	４～６	牧草適草種、品種選定と混播組合せ、草地更新等	
	7	全体総括	
	8	試験	
教科書、参考図書等		草地・飼料作物の生産と利用（青森県)、講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、小テスト	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	家畜衛生(講義)		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	2	時間数	３０

指導のねらい	畜産における家畜衛生の重要性を理解させ、適正な家畜の衛生管理技術を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜10	１～５	環境と衛生、疫病の予防と対策、家畜の主要な感染症	営大職員
	６～12	環境と衛生、疫病の予防と対策、家畜の主要な感染症、農場ＨＡＣＣＰ	担当職員 (各家畜保健衛生所)
	13～14	全体総括	営大職員
	15	試験	
教科書、参考図書等		家畜衛生ハンドブック（(株)養賢堂)、ライフステージでみる牛の管理（緑書房)、乳牛の疾病・予防・治療・看護療法（デーリィジャパン社)、講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲、レポート、小テスト	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	家畜生理（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	家畜の生理生態について理解させ、生産管理に必要な基礎知識を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
10〜1	1	産肉生理	担当職員（畜産研究所和牛改良技術部）
	２～７	泌乳生理、内分泌、代謝・成長、血液・循環、免疫機能、神経系の機能、感覚・採食調節、呼吸・体温調節	営大職員
	8	試験	
教科書、参考図書等		畜産指導要項（青森県）、体のしくみとはたらき図鑑（創元社）、講師作成資料、畜産ｅラーニング動画	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲、レポート、小テスト	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	家畜栄養（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	家畜飼養に必要な飼料の栄養価､家畜の消化吸収及び代謝について習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
5〜1	１～２	栄養の基本	種市　弥枝
	３～４	牛における消化及び吸収の仕組、給与飼料計算	担当職員（畜産協会）
	５～７	乳牛と肉牛の違い、飼料成分分析項目、飼料の種類、飼料成分と乳成分	
	8	試験	
教科書、参考図書等		家畜人工授精講習会テキスト（日本家畜人工授精師協会）、獣医師のための飼料入門（緑書房）、講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、レポート	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	家畜解剖（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	2	時間数	３０

指導のねらい	家畜の体の構造と各器官の機能について習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4 ～ 10	１～14	発生、細胞と組織 外皮、運動器官 内臓、循環、神経と感覚器	営大職員
	15	試験	
教科書、参考図書等		家畜の生体機構（文永堂出版）、牛の解剖アトラス（緑書房）、体の仕組とはたらき図鑑（創元社）、講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲、レポート、小テスト	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	家畜解剖（実験演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	３０

指導のねらい	家畜の体の構造と各器官の機能について習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4 ～ 8	１～14	生殖器の形態及び機能 精子及び卵子の形成 家畜・実験動物の解剖 生殖器の解剖 と畜場見学	種市　弥枝
	15	試験	
教科書、参考図書等		家畜人工授精講習会テキスト（日本家畜人工授精師協会） 牛の解剖アトラス（緑書房）、家畜の生体機構（文永堂出版） 講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験、学習態度、学習意欲、レポート、小テスト	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	家畜飼養管理（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	家畜飼養に必要な基礎知識と管理の要点について理解させ、基本的な飼養管理技術を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜11	１～６	飼養管理の基本、飼養管理施設の種類（乳用牛、肉用牛、鶏）	担当職員（畜産研究所）
	７～10	一般的飼養管理方法	種市　弥枝
	11～13	家畜の登録、審査	
	14	全体総括	
	15	試験	
教科書、参考図書等		図集 家畜飼育の基礎知識（(一社)農山漁村文化協会） 家畜人工授精講習会テキスト（日本家畜人工授精師協会） 畜産指導要領（青森県）	
成績評価の方法		筆記試験、レポート	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	家畜飼養管理（実習）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	４５

指導のねらい	家畜飼養に必要な基礎知識と管理の要点について理解させ、基本的な飼養管理技術を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
12〜2	１～５	家畜に及ぼす環境の影響	種市　弥枝 中村　夏奈
	６～10	畜舎等家畜飼養施設の種類及び特性	
	11～16	一般的飼養管理方法	
	17～20	家畜の取扱い及び家畜の手入れ	
	21	畜舎等畜産施設の管理及び取扱い	
	22～23	飼料給与	
教科書、参考図書等		図集　家畜飼育の基礎知識（(一社)農山漁村文化協会） 家畜人工授精講習会テキスト（日本家畜人工授精師協会） 畜産指導要領（青森県）	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	畜産ゼミナール（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	プロジェクト学習課題遂行のため畜産経営で抱える問題点を把握し、その解決に向けた家畜飼養・調査計画を立案させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜12	１～２	プロジェクト設計検討会聴講	種市　弥枝 中村　夏奈
	３～４	過去のプロジェクトの分析	
	5	論文の書き方	
	６～７	プロジェクト課題設計の相互検討	
	8	レポート作成	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	畜産ゼミナール（演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	2	時間数	６０

指導のねらい	畜産経営及び流通の特性を理解させ、収益を持続的・安定的に確保するための要因と経営計画の方法を習得させるとともに、設定したプロジェクト学習課題の遂行上の問題点の把握と対応、調査データの収集・分析方法について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜1	１～２	プロジェクト学習遂行上の問題点整理	種市　弥枝 中村　夏奈
	３～10	畜産経営及び畜産物の流通・畜産物加工の現状調査	
	11～15	調査データの整理及び中間検討	
	16～20	畜産物の分析	
	21～25	調査データの整理と試験成績取りまとめ	
	26～28	プロジェクト学習成果課内検討	
	29～30	プロジェクト学習成果校内発表会	
教科書、参考図書等		畜産の動向（中央畜産協会）	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲、レポート	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	畜産環境保全（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	畜産と環境との複雑な関わりを理解し、環境に配慮した畜産経営のために必要な知識を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
5 〜 11	１〜４	畜産環境を巡る情勢 法律 家畜排せつ物の処理方法	種市　弥枝
	５〜６	堆肥化処理の基本 畜種別堆肥の特徴と利用	
	７〜８	現地見学（堆肥センター、畜産農家）	
教科書、参考図書等		講師作成資料、畜産環境をめぐる情勢（農林水産省）、 動画「畜産環境技術基礎講座」（畜産環境整備機構）	
成績評価の方法		筆記試験、レポート、学習態度	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	家畜育種（講義）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	家畜育種の基礎理論と育種方法及び能力の評価法について理解させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
9 〜 12	１〜３	家畜の遺伝の原理、基本	種市　弥枝
	４〜５	家畜の選抜方法とその特徴	担当職員 （畜産協会）
	６〜７	黒毛和種の育種と改良	
	８	試験	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		筆記試験	

専攻科目：畜産課程

科目名	農家実習（講義・実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	３	時間数	１５・９０

指導のねらい	技術的、経営的に優れた農家や農業法人等に派遣し、農作業や生活体験を通じて実践的な技術や経営に対する考え方等を直に学び､農業観や職業観を養う。

月	校時	講義内容	実習内容	担当者名
６・９	１～２	実習に係る事前打合せ 派遣先市町村の主要農畜産物等に関する調査		営大職員
	３～４	農家実習説明会		
	５～49		受入農家の営農計画に沿った実習及び生活体験、実習日誌の記録	受入農家等
	50～53	農家実習報告会、 実習レポート・礼状作成		営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料		
成績評価の方法		学習態度、実習日誌、実習報告会、受入農家評価等		

専攻科目：畜産課程

科目名	卒業論文（演習）		履修区分	必修	
学 年	２学年	単位数	３	時間数	９０

指導のねらい	２年間の実践学習の成果を取りまとめることで､将来の営農計画の参考とする。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
12～2	１～45	卒業論文取りまとめ	種市　弥枝 中村　夏奈
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲、レポート	

専攻科目：畜産課程：共通

科目名	肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	１学年	単位数	１２	時間数	５４０

指導のねらい	牛の飼養・繁殖管理や機械操作などの実習を通じて、乳用牛及び肉用牛の特性を理解させ、家畜飼養管理技術を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ ３	１～234 235～256 257～270	１　家畜及び飼料作物生産管理実習 （１）乳用牛及び肉用牛の飼養管理 (a) 生理　(b) 衛生　(c) 繁殖（発情発見、直腸検査） (d) 子牛、育成牛、肥育牛の飼養管理技術 (e) 品種の違いによる飼養管理技術 ２　酪農・肉用牛の経営研修 （１）流通加工、販売研修 （２）先進地、関係機関等の視察研修 ３　専門技術研修 （１）家畜審査（体測、体型審査） （２）削蹄	種市　弥枝 中村　夏奈

教科書、参考図書等	酪農ハンドブック（(株)養賢堂)、日本飼養標準・乳牛（中央畜産会)、乳牛管理の基礎と応用（(株)デーリィー・ジャパン社)、畜産指導要領（青森県)、日本飼養標準・肉用牛（中央畜産会)、さらによくなる子牛生産(日本畜産振興会)、もっとよくなる肥育管理(日本畜産振興会)、講師作成資料
成績評価の方法	学習態度、学習意欲、実技試験、レポート

専攻科目：畜産課程：畜産

科目名	肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	１１	時間数	４９５

指導のねらい	牛の飼養・繁殖管理や機械操作などの実習を通じて、乳用牛及び肉用牛の特性を理解させ、家畜飼養管理技術を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ １	１～248	酪農・肉用牛の経営 乳用牛及び肉用牛の飼養管理 (a) 生理　(b) 衛生　(c) 繁殖（発情発見、直腸検査） (d) 子牛、育成牛、肥育牛の飼養管理技術 (e) 品種の違いによる飼養管理技術 乳用牛及び肉用牛の体型審査、飼料作物と草地管理、流通加工 酪農・肉用牛の機械施設利用、先進的農家等体験研修 先進地・関係機関等の視察研修	種市　弥枝 中村　夏奈

教科書、参考図書等	酪農ハンドブック（(株)養賢堂)、日本飼養標準・乳牛（中央畜産会)、乳牛管理の基礎と応用（(株)デーリィー・ジャパン社)、畜産指導要領（青森県)、日本飼養標準・肉用牛（中央畜産会)、さらによくなる子牛生産(日本畜産振興会)、もっとよくなる肥育管理(日本畜産振興会)、講師作成資料
成績評価の方法	学習態度、学習意欲、実技試験、レポート

専攻科目：畜産課程：畜産

科目名	肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	３	時間数	４５

指導のねらい	牛の飼養・繁殖管理や機械操作などの実習の体験を活かして、乳用牛及び肉用牛の特性と家畜飼養管理に関する知識を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ １	１～23	酪農・肉用牛の経営 乳用牛及び肉用牛の飼養管理 （a）生理　　（b）衛生　　（c）繁殖（発情発見、直腸検査） （d）子牛、育成牛、肥育牛の飼養管理技術 （e）品種の違いによる飼養管理技術 乳用牛及び肉用牛の体型審査 飼料作物と草地管理 流通加工 酪農・肉用牛の機械施設利用 先進的農家等体験研修 先進地、関係機関等の視察研修	種市　弥枝 中村　夏奈

教科書、参考図書等	酪農ハンドブック（(株)養賢堂)、日本飼養標準・乳牛（中央畜産会)、乳牛管理の基礎と応用（(株)デーリィー・ジャパン社)、畜産指導要領（青森県)、日本飼養標準・肉用牛（中央畜産会)、さらによくなる子牛生産（日本畜産振興会)、もっとよくなる肥育管理（日本畜産振興会)、講師作成資料
成績評価の方法	学習態度、学習意欲、レポート

専攻科目：畜産課程：６次産業化コース

科目名	肉用牛・乳用牛飼養【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	５	時間数	２２５

指導のねらい	牛の飼養・繁殖管理や機械操作などの実習を通じて、乳用牛及び肉用牛の特性を理解させ、家畜飼養管理技術を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
４ ～ １	１～113	酪農・肉用牛の経営 乳用牛及び肉用牛の飼養管理 （a）生理　　（b）衛生　　（c）繁殖（発情発見、直腸検査） （d）子牛、育成牛、肥育牛の飼養管理技術 （e）品種の違いによる飼養管理技術 乳用牛及び肉用牛の体型審査 飼料作物と草地管理 酪農・肉用牛の機械施設利用 先進的農家等体験研修 先進地、関係機関等の視察研修	種市　弥枝 中村　夏奈
教科書、参考図書等		酪農ハンドブック（(株)養賢堂)、日本飼養標準・乳牛（中央畜産会)、乳牛管理の基礎と応用（(株)デーリィー・ジャパン社)、畜産指導要領（青森県)、日本飼養標準・肉用牛（中央畜産会)、さらによくなる子牛生産（日本畜産振興会)、もっとよくなる肥育管理（日本畜産振興会)、講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲、実技試験、レポート	

専攻科目：６次産業化コース

科目名	マーケティング論【応用】（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	２	時間数	３０

指導のねらい	商品価値の高い売れる加工品づくりに必要なマーケティングの考え方や具体的な手法を、実践活動を通じて体験的に習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
５～11	1	年間活動計画作成（テーマ及びスケジュールの決定）	星野　康人
	2	シーズ整理（シーズ整理シートの作成）	
	3	ニーズ調査（２次データ（他者が調査したデータ）等の収集）	
	4	ニーズ分析（未充足の強いニーズの抽出）	
	５～６	商品コンセプトづくり（コンセプトシートの作成）	
	7	試作品の設計	
	8	試作品の作成	
	9	商品テスト（試作品を用いた会場テスト）	
	10	商品テスト結果の分析	
	11	価格設定の検討（ＰＳＭ分析、原価計算）	
	12	表現コンセプトづくり（ネーミング、パッケージ、ポップ等）	
	13	テスト販売（試食宣伝、アンケート調査）	
	14	テスト販売の結果分析	
	15	成果発表	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		発表、レポート、学習態度	

専攻科目：６次産業化コース

科目名	フードシステムと食品流通（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	食品製造業、食品小売業、輸出ビジネスなど、作った商品を消費者に届ける仕組みに関する知識を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
5〜11	1	食品加工産業	食品関連企業、有識者等
	2	食品製造業	
	3	食品小売業	
	4	食品輸出ビジネス	
	５〜６	直売、ネット販売	
	7	事例調査	営大職員
	8	成果発表	
教科書、参考図書等		講師作成資料等	
成績評価の方法		発表、レポート、学習態度・意欲	

専攻科目：６次産業化コース

科目名	経営管理基礎（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	経営の模擬体験等を通じて、労務管理や原価計算など、経営管理に必要となる基礎知識を習得させる。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
6〜12	1	労働災害と年金制度	髙地　豊人
	2	農産物加工の原価計算	山本　進
	３〜６	体験型経営術実践	石倉　憲治
	７〜８	模擬６次産業化	山田　貴弘
教科書、参考図書等		講師作成資料等	
成績評価の方法		学習態度・意欲、確認テスト	

専攻科目：６次産業化コース

科目名	食品加工・貯蔵学（講義・実験演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	2	時間数	１５・３０

指導のねらい	地域農畜産物の機能性や特性を生かした付加価値の高い加工品の生産に必要な、加工・貯蔵技術を習得させる。

月	校時	講義内容	演習内容	担当者名
5〜11	1	食品の冷凍技術		担当職員（食品総合研究所）
	2	地域資源を活用した加工品づくり		担当職員（下北ブランド研究所）
	３〜８		保存食品の製造・加工	担当職員（農産物加工研究所）
	９〜10	醸造及び発酵食品		担当職員（弘前工業研究所）
	11〜14		醸造及び発酵食品の製造・加工	担当職員（上北農産加工）
	15〜16	食品の機能性		営大職員
	17〜18		食品の機能性	関連団体
	19〜22		現地研修	営大職員
	23	試験		営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料等		
成績評価の方法		授業態度・意欲、レポート、試験		

専攻科目：６次産業化コース

科目名	食品衛生学（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	６次産業化に取り組む際に必要となる食品衛生に関する知識を習得するとともに、「食品衛生責任者」の資格取得を目指す。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
5〜11	１〜２	食品衛生、ＨＡＣＣＰ	担当職員（上北保健所）
	３〜４	食品微生物の検査手法（(一財）青森県薬剤師会食と水の検査センター視察）	営大職員
	５〜８	食品衛生責任者講習	関連団体
教科書、参考図書等		講師作成資料等	
成績評価の方法		レポート、授業態度、資格取得状況等	

専攻科目：６次産業化コース

科目名	６次産業化ゼミナール（講義）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	１５

指導のねらい	設定したプロジェクト学習課題の遂行上の問題点の把握と対応、調査データの収集・分析方法について学習する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜12	１～４	プロジェクト設計検討会報告・聴講	営大職員
	5	プロジェクト学習遂行上の問題点整理	
	6	プロジェクト学習調査データ整理について	
	7	プロジェクト学習成果取りまとめ方法について	
	8	プロジェクト学習発表方法について	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：６次産業化コース

科目名	６次産業化ゼミナール（実験演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	1	時間数	３０

指導のねらい	設定したプロジェクト学習課題を遂行するための加工・分析手法及び調査方法を把握する。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4〜1	１～２	加工・分析機器の操作方法	営大職員
	３～４	対象農畜産物の加工手法、加工品の分析方法	
	５～８	試作品の試食アンケート及びテスト販売の調査方法	
	9	プロジェクト学習実施内容公開	
	10	アンケート結果取りまとめ	
	11〜12	価格の設定方法	
	13〜14	プロジェクト学習成果取りまとめ	
	15	プロジェクト学習成果検討会、校内発表会	
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：６次産業化コース

科目名	６次産業化実践【専攻実習】（演習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	１	時間数	３０

指導のねらい	プロジェクト学習を通じて、加工技術、経営管理能力、課題解決方法の習得を目指す。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4～12	１～15	プロジェクト学習に係る調査・試験方法、プロジェクト学習のまとめ方、プロジェクト学習の評価等	営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料等	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：６次産業化コース

科目名	６次産業化実践【専攻実習】（実習）		履修区分	必修	
学　年	２学年	単位数	６	時間数	２７０

指導のねらい	プロジェクト学習を通じて、加工技術、経営管理能力、課題解決方法の習得を目指す。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
4～12	１～135	プロジェクト学習に係る調査・試験、プロジェクト学習のまとめ、プロジェクト学習の評価等	営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料等	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲	

専攻科目：６次産業化コース

科目名	卒業論文（演習）		履修区分	必修	
学 年	２学年	単位数	３	時間数	９０

指導のねらい	２年間の実践学習の成果を取りまとめることで､将来の営農計画の参考とする。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
12～2	１～45	卒業論文取りまとめ	営大職員
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		学習態度、学習意欲、レポート	

４　自由選択科目

自由選択科目

科目名	農業機械操作Ⅲ【無人ヘリ】（講義・演習）		履修区分	選択	
学　年	２学年	単位数	４	時間数	３０・９０

指導のねらい	産業用無人ヘリコプターの基礎知識・操作方法・作業安全について習得させるとともに、操縦資格の取得を目指す。

月	校時	講義内容	演習内容	担当者名
10〜11	１～２	無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰの活用方法と基本操作・農薬関係について		インストラクター
	３～20		ＰＣシミュレーション	
	21～25	無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰの構造と機能		
	26～40		実技　全蛇Ｃモード	
	41～45		実技　全蛇Ａモード、マニュアル	
	46～47	無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰの応用操作・関係法令について		
	48～57		実技　全蛇ＧＰＳモード	
	58	学科試験		
	59～60		技能試験　離着陸 散布パターン	

教科書、参考図書等	授業受託業者テキスト、講師作成資料
成績評価の方法	筆記試験、実技試験、学習態度、学習意欲

自由選択科目

科目名	茶道（演習）		履修区分	選択	
学　年	１・２学年	単位数	１	時間数	３０

指導のねらい	日本の伝統文化の一つである茶道を通し、礼儀作法や豊かな人間性を身に付けさせるとともに、初級許状の取得を目指す。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
5〜2	１～２	茶道の歴史（茶のこころ）、茶室での作法（立居振舞）	千葉　育子
	３～14	割り稽古（帛紗さばき、棗・茶杓のふき方、菓子器の扱い方）	
		基本点前動作（盆略点前手順、お運びの仕方、お茶の点て方）	
		風炉薄茶点前（柄杓の扱い）	
		立礼薄茶点前（立礼席でのお運びの仕方）、呈茶	
	15	許状引継、食事の作法	

教科書、参考図書等	講師作成資料
成績評価の方法	実技試験、学習態度、学習意欲

自由選択科目

科目名	華道（演習）		履修区分	選択	
学　年	１・２学年	単位数	１	時間数	３０

指導のねらい	花材として付加価値の高い花き栽培について理解させる。 また、日本の伝統文化の一つである華道を通し、季節や場所に調和した美的感覚を醸成し、豊かな人間性を身に付けさせるとともに、入門及び初伝の免状取得を目指す。

月	校時	講義・演習・教育内容	担当者名
５ ～ ２	１～15	いけばな概論 実技・展示 許状伝達	松田　ツヤ
教科書、参考図書等		講師作成資料	
成績評価の方法		実技試験、作品録、学習態度、学習意欲	

５　特別活動

全課程：特別活動（学校行事）

科目名	学校行事		履修区分	必修	
学　年	１・２年	単位数	―	時間数	９０・９５

指導のねらい	入校式、防災訓練などの学校行事等を実施する。

校時数		月	内　　容
１年	２年		
11	12	4	入校式
2	2	4・12	交通安全教室
2	2	4	健康診断
8	8	4～12	ＨＲ活動
1	2	4	卒業写真撮影
2	2	5	防災訓練
4	4	7	オープンキャンパス
8	8	11	営大祭
8	8	3	卒業式

特別活動（就農・ビジネス講座）

科目名	就農・ビジネス講座		履修区分	必修	
学　年	１・２年	単位数	―	時間数	１５・５

指導のねらい	社会人として必要なビジネスマナーや､就農に関する幅広い知識を習得させる。

校時数		月	内　　容
１年	２年		
	1	4	ビジネスマナー
1		4	コミュニケーション能力
	1	5	就職活動のポイント
1		6	論文・レポートの書き方
1		12	ビジネス講座（就職活動準備）
1		1	社会人基礎力（前に踏み出す力）
	1	1	年金講座（年金機構）
1		2	社会人基礎力（考え抜く力）
1		2	社会人基礎力（チームで働く力）
1		3	就職・就農講座　（履歴書、エントリーシートの書き方）
1		3	就職・就農講座　（面接対策）

特別活動（自治会活動）

科目名	自治会活動		履修区分	必修	
学　年	１・２年	単位数	―	時間数	１５・１５

指導のねらい	学生自治会の自主的な運営を促進するため自治会活動を実施する。

校時数		月	内　　容
１年	２年		
8	8	４～12	自治会総会 各種委員会活動

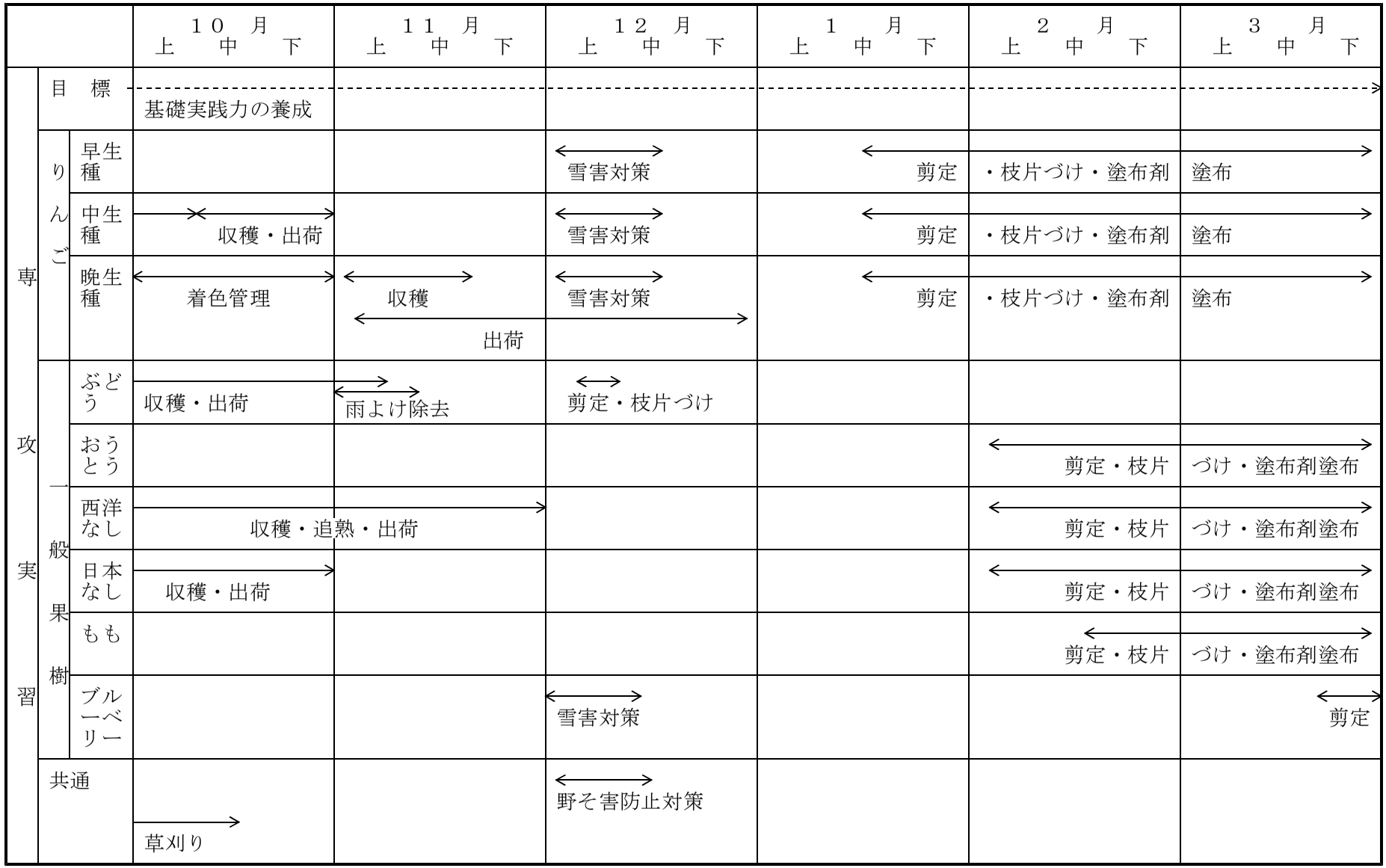
６　専攻実習計画表

（１）畑作園芸課程

4月 上 中 下
5月 上 中 下
6月 上 中 下
7月 上 中 下
8月 上 中 下
9月 上 中 下
10月 上 中 下
11月 上 中 下
12月 上 中 下
1月 上 中 下
2月 上 中 下
3月 上 中 下
専攻実習
施設野菜
施設花き
共通
半促成きゅうり
防除・追肥・誘引・摘心・収穫・調製・出荷
播種準備
播種
育苗管理
定植
温度管理
半促成トマト
温度管理
防除・追肥・誘引・ﾎﾙﾓﾝ処理・摘心・摘果・摘葉・収穫・調製・出荷・
播種準備
播種
育苗管理
定植
夏秋トマト
育苗管理
定植
温度管理
防除・追肥・誘引・ﾎﾙﾓﾝ処理・摘心・摘果・摘葉・収穫・調製・出荷
播種準備
播種
水耕トマト
定植
温度管理
防除・誘引・ﾎﾙﾓﾝ処理・摘心・収穫・出荷
定植
温度管理
防除・誘引・ﾎﾙﾓﾝ処理・摘心・収穫・出荷
播種
育苗管理
水耕ミツバ
播種・定植
収穫・調製・出荷
播種・定植・収穫・調製・出荷
収穫・調製・出荷
ほうれんそう
播種・温度管理・収穫・調製・出荷
土づくり
施設土壌消毒（蒸気）
輪ぎく
施肥 播種 定植 ﾄﾝﾈﾙ管理
耕起・
支柱・ﾈｯﾄ張り
ﾈｯﾄ上げ
防除 芽かき 収穫
調製・出荷
親株採穂
定植
摘心・ﾄﾝﾈﾙ管理・灌水・防除
採穂
トルコギキョウ
は種 育苗
定植 支柱立て
かん水・防除・ネット上げ
収穫・調製・出荷
育苗床土づくり
蒸気消毒・pH調整・ポット等詰め

（２）果樹課程

			4月（上・中・下）	5月（上・中・下）	6月（上・中・下）	7月（上・中・下）	8月（上・中・下）	9月（上・中・下）
専攻実習	目標		基礎実践力の養成					
	りんご	早生種	枝片づけ　蜂巣箱	設置　人工授粉	摘果	徒長枝整理	着色	管理　収穫・出荷
		中生種	枝片づけ　蜂巣箱	設置　人工授粉	摘果	徒長枝整理		着色管理
		晩生種	枝片づけ　蜂巣箱	設置　人工授粉	摘果	徒長枝整理		
	一般果	ぶどう	雨よけ被覆	摘芽・摘梢　誘引・摘心	花穂整形・ジベ処理	摘粒・新梢管理		収穫・出荷
		おうとう	枝片づけ	人工授粉　雨よけ被覆	収穫・出荷	雨よけ除去		
		西洋なし	枝片づけ	摘果	・新梢管理			収穫・追熟・出荷
		日本なし	枝片づけ	摘果	・新梢管理			収穫・出荷
		もも	枝片づけ　人工授粉	摘果	・新梢管理		収穫・出荷	
		ブルーベリー	剪定・枝片づけ			収穫・出荷		
	共通		施肥	薬剤散布　草刈り				


１０　月
上　中　下
１１　月
上　中　下
１２　月
上　中　下
１　月
上　中　下
２　月
上　中　下
３　月
上　中　下
専攻実習
目　標
基礎実践力の養成
りんご
早生種
雪害対策
剪定
・枝片づけ・塗布剤
塗布
中生種
収穫・出荷
雪害対策
剪定
・枝片づけ・塗布剤
塗布
晩生種
着色管理
収穫
出荷
雪害対策
剪定
・枝片づけ・塗布剤
塗布
一般果樹
ぶどう
収穫・出荷
雨よけ除去
剪定・枝片づけ
おうとう
剪定・枝片
づけ・塗布剤塗布
西洋なし
収穫・追熟・出荷
剪定・枝片
づけ・塗布剤塗布
日本なし
収穫・出荷
剪定・枝片
づけ・塗布剤塗布
もも
剪定・枝片
づけ・塗布剤塗布
ブルーベリー
雪害対策
剪定
共通
草刈り
野そ害防止対策

（３）畜産課程

① １学年

		４　月 上　中　下	５　月 上　中　下	６　月 上　中　下	７　月 上　中　下	８　月 上　中　下	９　月 上　中　下
専攻実習	目標	家畜の基礎的な取扱いの習得		粗飼料生産の基礎習得 各家畜の繁殖技術の基礎習得		暑熱期の家畜管理技術の習得	
	共通	プロジェクトの基礎学習 搾乳、ミルカーの基本操作習得 家畜の基本的取扱い方の習得		圃場づくり、とうもろこし播種 牧乾草、牧草サイレージ調製 家畜審査（体測、体型審査） ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 構想設定		家畜の暑熱に対する行動の観察と対策 夏場の衛生管理（牛体、畜舎、堆肥） 夏季の草地管理（牧乾草の調製） プロジェクト実践	
	酪農	乳牛の一般管理 乳牛の見方と選び方		発情の発見 受精適期の判定 分娩前後の管理 分娩介助 子牛の育成 放牧草地の利用と管理		パドック内庇陰場所の確保 夏季の飼料給与法 バルククーラーの手入れと温度管理の重要性	
	肉牛	肉牛の一般管理 肉牛の見方と選び方				衛生害虫の駆除 夏季の飼料給与法 牛体の手入れ	
	演習	内部寄生虫の検査と駆除の基礎	畜体、畜舎消毒の基礎と実際 飼料計算の基礎	パソコンを利用した飼料計算 外部寄生虫の駆除	乳質検査の実際 肉牛の血液検査 土壌成分分析	生殖器解剖 校外研修 草種の特性	精液検査 土壌分析

		10　月 上　中　下	11　月 上　中　下	12　月 上　中　下	1　月 上　中　下	2　月 上　中　下	3　月 上　中　下
専攻実習	目標	夏季の家畜飼養管理の取りまとめ	冬季の家畜飼養管理技術の習得		厳寒期の家畜飼養管理技術の習得		実践学習取りまとめ
	共通	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 中間検討	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 追加試験 削蹄	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 取りまとめ	経営ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 課題設定	基本構想、計画作成	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実践
	通	ﾄｳﾓﾛｺｼｻｲﾚｰｼﾞ調製	堆肥生産の基礎と必要性及び供給計画				
	酪農	夏季における乳量の変化と乳質	子牛、育成牛に対する隙間風の影響と防除対策 冬期間の飼料給与と飼料要求量の変化		厳寒期における牛舎管理の実際 冬季における分娩介助		
	肉牛	夏季における増体の変化と影響					各家畜の飼養管理技術の取りまとめ
	演習	土壌分析と施肥量	飼料分析と給与量	家畜人工授精の実務	家畜人工授精 （授精の実際）		

② ２学年

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>４　月
上　中　下</th><th>５　月
上　中　下</th><th>６　月
上　中　下</th><th>７　月
上　中　下</th><th>８　月
上　中　下</th><th>９　月
上　中　下</th></tr>
<tr><td rowspan="4">専攻実習</td><td>目標</td><td colspan="2">基礎知識、技術の復習と点検</td><td colspan="3">家畜人工授精技術、飼料作物栽培技術実践力の向上</td><td></td></tr>
<tr><td>共通</td><td colspan="6">プロジェクト実践　　中間検討　　プロジェクト実践
畜産経営における草地管理の計画と実際</td></tr>
<tr><td>酪農
肉牛</td><td>分娩介助
子牛の育成
展示圃場整備</td><td>去勢
除角
削蹄</td><td>牧草サイレージ
牧乾草調製機械
の操作・運転</td><td colspan="3">展示圃場管理
草地に応じた肥培管理
家畜飼養管理　　家畜人工授精　　乳質管理</td></tr>
<tr><td>演習</td><td>内部寄生虫の検査と駆虫</td><td>畜体、畜舎の消毒
肥料計算</td><td>農家研修</td><td>家畜の改良</td><td>飼料の流通</td><td>放牧衛生管理</td></tr>
</table>

		10　月 上　中　下	11　月 上　中　下	12　月 上　中　下	1　月 上　中　下	2　月 上　中　下	3　月 上　中　下
専攻実習	目標	実践技術の総括・反省					
	共通	プロジェクト実践			成績の検討・取りまとめ・発表		
		とうもろこしサイレージ調製 稲藁収集・確保					
	酪農	我が家の経営の実態調査と改善点、新技術導入の検討					
	肉牛	我が家の経営の実態調査と改善点、新技術導入の検討					
	演習	食肉センター・食肉加工施設視察	飼料分析、脂肪酸分析				

Ⅸ 農家実習（予定）

１　目　　的

本校教育計画に基づき、学生を一定期間、技術的、経営的に優れた農業者等のもとに派遣し、実践的な技術や経営に対する考え方等を学ばせることにより、基本学習で得た知識・技術を更に深め、将来の農業経営に役立てることを目的とする。

２　対象学生

２学年　３２名　（畑作園芸課程　２０名／果樹課程　１０名／畜産課程　２名）

学生の個人情報は、「実習学生プロフィール」により該当する農林水産事務所農業普及振興室（以下「農業普及振興室」という。）及び受入農家等へ提供する。

３　実施計画（案）

期間／課程	前期 6/4～17 (14日間)	後期 8/29～9/11 (14日間)
畑作園芸	１１名	９名
果　　樹	４名	６名
畜　　産	２名	
計	１７名	１５名

４　農業普及振興室と営農大学校の連携

（１）実習受入農家等の決定

営農大学校は農業普及振興室の協力のもとに、受入農家等を決定する。この際、次の事項を考慮するものとする。

ア　原則として出身地域の農林水産事務所管内とする。

イ　実習学生が特定地域に集中しないよう、農業普及振興室間の調整を図る。

（２）実習方法

実習学生は、実家や学生寮からの通い又は実習受入農家への宿泊により実習を行う。

ア　通いの場合

（ア）原則として、保護者等による送迎とする。ただし、やむを得ない場合は実習学生の自家用車使用を認める。

（イ）実習学生が自家用車による通いを行う場合は、「自家用車使用届」を校長へ提出するものとする。

（ウ）通いに係る事故等は、実習学生本人及び保護者等が責任を負うものとする。

（エ）実習学生の昼食は、実習学生本人が準備することを原則とする。

（オ）実習時間は原則として週休１日、８時から17時までを基準とするが、受入農家等の実態に即した時間とする。

イ　宿泊の場合

（ア）寝具は受入農家等に手配を依頼する。

（イ）食事は受入農家等に依頼する。

（ウ）実習時間は原則として週休１日、８時から17時までを基準とするが、受入農家等の実態に即した時間とする。

（３）実習開始・終了時における学生の送迎

実習開始・終了時における受入農家等への学生の送迎は、所轄の農業普及振興室と営農大学校職員が行う。

（4）実習期間中の学生指導

ア　実習学生の指導は、営農大学校が所轄の農業普及振興室の協力を得て連携してあたる。

イ　営農大学校は、農家実習の円滑な推進を図るため、実習の中間時点に農業普及振興室の協力を得て実習学生を訪問する。

ウ　実習学生は、最終日に農業普及振興室を訪問して実習報告を行うとともに、普及指導員からの助言等を受ける。

（5）実習中の事故・病気等への対応

ア　予防対策

営農大学校は、事前研修会を開催し、実習学生に対して受入農家等での実習及び生活における指導に努める。

イ　事故・病気等発生時の対応

実習学生は毎朝検温及び健康観察を行い、発熱や咳・のどの痛み等いつもと異なる体調の場合は実習を休む。

実習中において実習学生に事故や病気等が発生した場合には、実習学生本人又は受入農家等は直ちに営農大学校に連絡する。

受入農家等及び農業普及振興室は、実習学生の受入に支障をきたす事態が発生した場合、速やかに営農大学校へ連絡するものとする。

営農大学校は、実習学生、受入農家等又は農業普及振興室から事故等の連絡を受けた場合は、対応を検討の上、実習学生、受入農家等及び農業普及振興室に連絡し、対応する。

（6）口蹄疫等家畜防疫への対応

ア　予防対策

畑作園芸課程及び果樹課程の実習学生は､受入農家等やその周辺に畜舎等がある場合には、受入農家等の指示に従うとともに、むやみに畜舎等へ出入りしないこと。

畜産課程の実習学生は、洗濯や消毒等をした実習服や長靴を持参すること。また、畜舎等への出入りは、受入農家等の指示に従うとともに、衛生管理に努めること。

イ　口蹄疫等の発生時の対応

実習学生、受入農家等又は農業普及振興室は、受入農家等又はその周辺において口蹄疫等が発生した場合、直ちに営農大学校に連絡すること。

5　実習レポートの提出等

（1）実習学生は、別に定める「実習レポート」を、実習終了後７日以内にホームルーム担当指導職員に提出する。

（2）ホームルーム担当指導職員は、実習学生から提出された「実習レポート」を精査し、教務研修課へ提出する。

（3）営農大学校は関係農業普及振興室に対し、実習成果情報としてレポートの写しを提供する。

6　その他関連事項

（1）実習作業中における負傷及び事故等は、原則として実習学生本人及び営農大学校が責任を負うこととする。

（2）受入農家等から実習学生に対する報酬は、支給しないこととする。

（3）営農大学校から受入農家等へのお礼は謝品とし、謝金は支出しないこととする。

（4）その他、本実習に係る必要な事項は別に定める。

Ⅹ　年間行事計画

月　日	主 な 行 事 ・ 研 修 等
４／　８ 　　９ 　１４～５／１ 　１１ 　２１～２２ 　２５	入寮・入校式リハーサル 入校式 農業機械操作Ⅱ（けん引研修Ａ班） 健康診断 プロジェクト設計検討会 交通安全教室
５／　７～２２ 　１６ 　２０～２１ 　２６～６／５	農業機械操作Ⅱ（けん引研修Ｂ班） 防災訓練 東日本農業大学校等親善球技大会 農業機械操作Ⅰ（大特研修Ａ班）
６／　４～１７ 　　６ 　　９～１９ 　１９ 　２３～７／３	農家実習 前期 保護者懇談会 農業機械操作Ⅰ（大特研修Ｂ班） 夜間防災訓練 農業機械操作Ⅰ（大特研修Ｃ班）
７／　７～１１ ７／２６～２７ 　２８～８／１７	農業機械整備Ａ班 オープンキャンパス 夏季休業
８／１８～２２ ８／２９～９／１１	農業機械整備Ｂ班 農家実習 後期
１１／　１～　２	営大祭
１２／　３ 　　８～　９ 　２３～２４ 　２６～１／５	交通安全教室 校内プロジェクトプレ発表会 校内プロジェクト発表会・意見発表会 冬季休業
１／１４～１５	東日本プロジェクト発表会・意見発表会（岩手県）
２／１２ ２／１７～１９	１学年保護者懇談会 全国プロジェクト発表会・意見発表会（東京都）
３／　７ 　１３ 　１４～４／５	卒業式 修了式 春季休業